御仕置例類集 二 九

漢書門 類
二八一九 號
二 函
一〇 架
八五 冊

内閣文庫
和書 類
二一九 號
八五 冊
一八一 函
一三 架

内閣文庫		
番號	和	219
冊數	85	(76)
函號	181	52

Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
colorchecker
x·rite
MSCCPPCC1109
MSCCPPPE1109
糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
国立公文書館
National Archives of Japan

御仕置例類集

中拭仇放
打擲
奇怪異説
隠鉄炮
捉飼場殺生

二

九

御仕置例類集九之帳

一 申掛ケ候もの類

一 打擲之類

一 寺僧異説之類

一 溺没死并捉閉場篤与殺生之類

中掛并仇討し候類

天保八申年十二月　町奉行

牧野駿河守殿江差出　山村信濃守掛

一横田大和守百姓女たつ〻致申掛候一件

新吟当

横田大和守百姓女

なつ〻

右之もの共酉九月廿日夜ニ入大和當屋敷
女部屋ニ盗賊入衣類紛失いたし候ニ付主人
方ニ而詮議穿鑿を以遂ニ拷問候處女つね
とみち中間ニ而次郎兵衛大和當元中間ニ而
當時尾林重之助中間清八郎申合盗取
候段清八へ致し置候由とみちおつねを
つねを次郎兵衛と密通いたしみち儀清八郎を
不義致し居候ニ付而も清八郎を手引致し

女部屋江引入置いたし候者盗賊形ニ偽りニ而相
中掛致し候段女之儀ニも候得共武家奉公
相勤候もの之旁始末不届ニ付江戸払
右若等
亥十月日探込之申付相知
数日入牢ニ付令審究
旁之不及沙汰
右御仕置附

右明和八卯年曲渕甲斐守殿町奉行勤役中
因之上ハ江戸中并御代官御預所御代地
清右衛門居長崎方ニ居候今井左衛門殿去年
十月十四日浅草御蔵庭水揚ケ并取交被し
少々取候事共ニ付石谷入牢中ニ付去吟味
少々盗取来申候と申候を当人ニ而ハ不申候
吟味ニ取計文吟味得候ニ付難候
之者不計存候ニ付七長崎ニ而外経所不知

其外武人今太郎右ニ一円右米盗取候由
中立候ニ付長崎儀度ゝ吟味候得共
右候米盗取候と中外ニ而長崎仕業ニ而
有之候ニ知合太郎儀一向思味ニ而不存候ニ無
之候處吟味ニ逢ひ申へく難候ニ存候
延ニ而候を取捕中之長崎ニ而難候申立
候得共不存候ニ付江戸構申付候例ゝ見合
右ハ一ト女之候ニ付江戸構申付候例と

見合候而縛ニ而一旦仕留候得共逃行候を
中仕ニ有之女ニ而庄次郎清五郎と入牢
致し糺明ニ而相違無之始末右女も縛ニ而不宜候
ニ付江戸払

右伺書ニ付御差
此儀不埒ニ而遠を申立候旨色矣女ニ而庄次郎
清五郎儀入牢糺明ニ而相違無之候ニ付一中宿
其例ニ而縛を以取調女ニ而淡路ニ付縛ニ而所払

ニ茂可有御座候ニ付武家方ニ仕置右之刑ニ
之押込候者恐く此之者の中ニより前出数人
其類ニ無之事ニ付遠人ニ而無之不相江戸
払ニ而相伺候処御吟味ニ付相又相考候処大抵書
方ニ而御吟味有之候ニ而流ニ候而も本意ニ無之
女者ニより起候儀少く折候ニ而無之作留
五十日押込ニ而可然存候併右御定六十日以上入牢
ニ而其者ニ付右者ニ付相伺ニ而御度御伺候

可致　作有候条

寛政元酉年六月　町奉行

多石丹波守殿江差出ス　初鹿野河内守掛

一石川左門中間利兵衛ゟ差出候一件

差上口書

石川左門中間

利兵衛

右之もの儀市左衛門方ゟ為麦代滞り

五之段傳半申旨之年蕎麦泚候段現金
全ニ而ニ蕎麦致不申旨之年ニ致候ニ付出て
申出候ニ付市右衛門被申方の能存違ひ候
合同人共江権八様通り作蕎麦之節を案
蕎麦遠藤道具を損し候又作権八今般は
金拾両渡申候之権八蘭之方之ニ候を懐り
市右衛門尺七之返掛参り同人方江参候捕
江戸候ニ而姉木山之番所中当年勤候身分之別当

不埒ニ付設之上江戸払
右依仕置済
右明和二酉年二月飯田屋前之同ニ而注進
申付候喜兵衛戸田監物中間付貼宮八殿
納込高林寺門前家主石酒屋太兵衛方ニ
酒代残銭之く候ニ付又候酒調銭返石代残
払候様ニ而申候様ニ被申付右酒代残払
候様太兵衛方江之處中々申ニ付ニ而候も

夜之後彼是雑兵中江姥女被り参次第を
投散し之證候得間程ニ而何中不届ニ付放
候上江戸掛中ニ付候例ニ見合せ以之外蕎麦
候市右衛門方ニ而ニ武鐡之證候得共家主居
蕎麦代銭渡りかくれ之候處去年中参
候段市右衛門方江被申公儀存違帳面権八
權適以前を突落蕎麦道具ニ候付文以
権八ニ御座候て候中拙市右衛門方ニ而迄狼藉ニ付

嫁米日限ニて極之有故ニ而江戸掛

寛政元酉年六月
牧野備後守殿江差出
一 武州榛羽村惣八外壱人同村与左衛門外弐人儀を
中立候一件

御勘定奉行
曲淵甲斐守掛

設楽主水知行
武州榛沢郡榛羽村
百姓
與左衛門

右之もの儀旧法度之旨ニ以不残備ニ付而
博奕致し候上無八源三郎儀迄ニ迄帳
存候御地蔵堂勧化致候者ニ而博奕為致
候様申候段縁ニ付申立候上今又博奕
致し候由取扱有之候中右地頭ニ添申立之義
相申立候通粉文之有之迄申渡候様来候ニ付
江戸構

右御仕置附

右延享二丑年諸長門当町茅町ニ而浪
同ニ上候住居申付作諸田岩井町ニ而清右
衛門店清出店次郎八同町山本町壱丁目代地
次兵衛店兼吉清右衛門店荒兎大清ニ而浪人小林より
御猪方ニ而御長持を持帰候処ニ又門より申合
主任町ニ而下通請取不存在宰領御猪方浪人
又三郎合率致し候門ニ而請取候処中間持を
不相用御長持を先白持帰り主任町九右衛門店借

裏御地ニ而不見知もの大勢谷御用候を相省
養持政致し候之以縞住ニ而御長持慶御帯
文門預り候夜居留置候之浪人ニ疑候ニ付
目安当申付候ニ付ニ大勢ニ申中ニ而候ハ文門
右之通申候処若挿宰領ニ而下手之如く候
云々致ら文門同様ニ而不二とのニ而仕業ニ由
申候ニ付召不届ニ付主人江戸相掛申付作願
例ニ見合候ものニ付而諸事可然上意子

鉄炮之儀申越被仰渡候旨江戸掛

寛政元酉年八月

御代官丹波吉兵衛殿江差出候写

右勘定奉行　根岸九郎左衛門掛

一武州竹沢村忠左衛門外弐拾人名前之御箱訴

一件

清水領知

武州比企郡笠原村

百姓

岩蔵

右之もの儀親ニ勘当請候ニ付右宿ニ而新次郎并
同人請判出候新六妹ニ而有之を但杉田氏重甚
渡角山村市太郎方江右妻人参居候後
限ニ被放候ニ付對談之上渡し置ならゝ
新十郎ニ大義ニ付き進不存ものゝ儀訴状ニ
一親諸ニ市太郎も何れも参り候處取持及相談
そこ上表次郎并差添中教ニ付実否とも
不乱勘次郎も無覚ものゝ不届至極ニ付被

新十郎儀も被縛押候七十五之笠済ニ而
捨置候探中不被致候得者不届ニ付江戸拂
右御仕置済
右御定書ニ人を殺候者被申付候もの一等
こやし不届ゆへ追放申付候ニ付見合候者も
申候ニ付飯売も被申上遣候様申付候ニ付
右之もの入利違為一ニ被及相済数候儀と申立
候ものゝ身右御定ニより不埒取計候旨御書

例之有見及不申出候處江戸掛

寛政元酉年八月　小普請支配知行

曾我丹波守殿御名家　曲淵甲斐守掛り

一武州花澤村元百姓共出入地所ケ年延沼

新之儀一件

水野伯耆守知行

武州埼玉郡花澤村

元百姓

常右衛門

右之もの儀去寅冬不届ニ付地頭吟味中手鎖
宿預申付置候処夜分手鎖外し逃去候ニ付
其節村役人共村掛り中ニ付尋候処村方不立去
其後村役人共不掛中付候処又一旦立去又候
立去候村内ニ罷在候上同村無宿者江相頼
之上隠遁いたし村預方ニ而盗いたし候段
懐中之金子掛ニ而盗取候段不届ニ付申出候
重不届ニ付敲之上江戸拾里四方追放

右御仕置済

右安永四未年十月安藤弾正少弼御勤役
中御勤役之節之振合伺之上御仕置申付候上別
上仁田山村半右衛門弟村役人共見ル所ニ而妻を請
娘いちを殺害致し候ニ付親元江返し候地頭より
申付候得共其後もいちを留置候ニ付村拂申付置
御仕置村方不立返候ニ付地頭ニ而申付之上不届
不届ニ付江戸拂申付候例ニ見合候ニ付

村拂親類拂ニ取計候之趣勝手ニ而致口論候
徒黨かましき申懸いたし候上金子致強談ニ及候段
中掛ハ不届も御座候ニ付當敷之上江戸拂之方
追放

寛政元酉年八月
松平越中守殿江伺書　御勘定奉行　曲淵甲斐守掛り
一　野州小金井宿元百姓文八一件
山中太郎兵衛御代官所
野州都賀郡小金井宿
元百姓
文八
右之者儀親類共不埒之儀有之村拂相成

此外元石村ニ而之儀ニ付吟味決着之上死罪
之儀を押隠門外ニ而海道召捕候處安右衛
若太郎ニ而高札内ニ而一揆重科之者ニ而組合之
并村役人存寄を以取計ニ付組中之并組合
とも同罰合ニ入困窮とも女房志らす入る
一万石当役人より申付ニ付品々継候ニ付
中之申ニ而御取計以右之段不届ニ付存命ニ
候ハヽ致し上江戸拾里四方追放

右御仕置済

右御定書ニ御様之趣ニ致糾細ニ付とも申之共ニ
御仕置より一等重く申付候ニ付とも之
於所ニ頭取ニ掛て高札ニ付とも之御取計
公儀御仕置ニ而ニ付江戸掛ニ高札之趣ニ相背
頭ニ様ニ地ニ而入ル江戸江戸拾里四方追放
ニ而高札之趣ニ相背吟味決着之上死罪致し候
村役人共不取計ニ付とも之高札内ニ而致し重

却而二て御村役人ニて取計方不宜候ニ付
急度ニも可申付處以不届ニ候得共尚
御役之者見不申出候ニ付致し上江戸拾里四方
追放

寛政元酉年十月　町奉行
牧野備後守殿江伺書　曲淵甲斐守掛
一上州上牧村要蔵方江入込盗賊一件
山中太郎左衛門代官所
上州利根郡布施村
冨士新田
百姓
庄

右之もの儀長八江申付候而衣類質入いたし
被世話候得共長八ハ彦太郎清太郎同居右ニ而も
盗物之儀ニ而其段申付候ニ付手掛を
相渡候処長八ハ無之寺ニ而水澤村傳七方ニ有之
旅籠人長八ハ右相頼候段申付右傳七方江
一 右儀ニて右之者申付清太郎外弐人江申含
従前相分を相頼候得共御奉行所水村
罷越候ら知彦太郎清太郎其外弐人ニ而ニ

此儀常八ハ遠方右之もの江こちく川合
候間長八ハ其外ニ候段被相返候ニ付其
盗賊之品入ニ而申付候ニ付縁候を下遣候ニ付
其後八ハ右類質入いたし被世話候得ニ申聞候
ニ而尋ニ相成候ニ付同様ニ而遠中ニ之候段右八江
申之ニ付而右衣ニ付御吟味
右仕置済
右御宿ニ人を殺候者ニ付其通り申付

以て重追放但御料私領共立帰候ハヽ
重キハ死罪ニ可申付候得共外弐人ハ
右擬ニ被仰付候ニ付格別ニ御免被成右
候人之儀ハ格別ニ付長八ニ相加候得ハ外弐人
同連之者ニ候間ニ付遠島被仰付候旨申渡候
頭取一人ニ付無之ニ付軽儀ニて遠島之者ハ
以右申渡候儀ニ付同人ハ遠島被仰付候ニ付申上候
右御仕置難被仰付候ニ付遠島被仰付候由申上候

候人之被出候ニ不埒ニ付御仕置申付候ニ付其者共
以右之通其外之人々等ニ付御吟味被成御尋
之上同様ニ付其上ニ付評定所ニ
唯今格別思召ニ付御仕置申付候例も有之
不申以後ハ江戸払

寛政二戌年四月
松平和泉守殿江差出ス

町奉行
池田筑後守掛

一水谷町ニ而相煩候者養生致し候一件

水谷町武十郎
嘉兵衛店
店 〆

右之者儀煩者養生致し候ニ付湯ニ罷
御役所江御届入被上り候後ニ右娘并正気ニ成

手絶致し候湯ニ而気を以後ハ無之知得と快
不仕猶遠し候中ニ而立候段不埒ニ付急度
叱り

申渡
江戸払

右伺之通申附

右伺書之例も相見候中老中中ニ而伺済とも
乱もの仕中遠之候中立之段不埒之候ニ付急度叱り

右御尋ニ付申上候
儀右衛門ニ而ハ疵之様子実ハ難渋之趣、至
以後之趣候得共申立候儀も無之、手負疵之度
之儀ニ付御吟味ニ相成候得共、申立候儀ニ無之候
も有之、御様子之儀共申上候ニ付、右之段申上候
疵人之儀ニ有之候所、相通候之通御座候様ニ相伺
之趣得と申上候ニ付、是迄ハ不届之者共申上候
者共不届候ニ付、候中之以後相伺候例も有之

見合ニも可相成哉ニ付申上候

右例

牧野大隅守掛源助町家主吉兵衛店庄右衛門召仕
平次郎儀、庄右衛門方ニ而いつれ之通之者
木見し候而疵付候様ニ安五郎と申もの
之外ニ疵為致候ニ付、取押候而召捕候ニ付存
候得共、御差図之上、武州月影之者共
同人糊常者之儀所持之者共申立候ニ付

何方江参候とのゟ存右若者を捕候処兵三郎
彼逃候様ニ申候ニ付指使ニ申候右之趣ニ付
一両三之処若者喜右衛門と申者ハ右ニ候とのゟ
ニ申来取締候中ニ候而ハ難相立ニ付同之
安永三午年十一月急度叱り

寛政二戌年六月　町奉行
松平和泉守殿御渡　池田筑後守掛
一麻布北草笄町新次郎被召捕候一件
麻布北草笄町
喜兵衛店
新次郎
右之もの儀当二月二日播州龍野在出ゟ備中

辰作県ニ纏候済ニ付其御返事中国方二日
若右馬後所内名主方ニ参り候上御掛合
右県ニ御返事中作連縄を作ニ付、所役人へ合
候之右県ニ取揃若返作ニ縄を解ニ而先役人
右後其残者ニ而右内人ニ経候一ト通りも其役
一 若右馬後ニ右方ニ東並ニ内合残而致て
外候済ニ後本海ニ而儀を取り中立可被及
旋返所致し候儀ハ右右馬方ニ對し申達ニ

其當別ニ取調ニ有所掛

右御住宿所

右者同年四月朔日羽州河内宿伺之上申付ニ而
御先手ニ而御儀書継同并上京清之儀一件ニ而
井辺ニ而細工所ニ而右馬方所警衛役上京
清者清光ニ而道案内致し其段ニ而御米ニ而役其外
其外御家人ニ而暗ニ被見悪様ニ申候ニ付
所警ニ而右ニ而別ニ取調ニ有所掛申付候

右新田開発縄之外作ニ付思し皆返候ハヽ
今年迄ニ而外ニ出し置本海ニ候を今以不
本海ニ起ニ而成し新出ニ候を中ニ者本田ニ而
此等ハ右之見縄を作より本紀ニ候ニ而付而
遠ニ候と右例ニ見合所務
右往来ニ有之
此等例ニ中上作ニ而経候ニ見合候ニ被為
作候ニ新次第ニ付ニ之法ニ右之不足方

縄之外候ニ而も所々も候て見合候ハヽ新開発
思候処所々見本海之候を不相海相続ニ之
作候ハヽ家へ合致仕居候根ニ付上ニ仮不足
対反掛中より根ニ有之而ニ而有之候ニ而
縄之より思ニ而遠候ニ而ニ本遠ニ而外ニ候も
先年より貸借致し候ニ而一向弥新と相之候
之掛中立候ニ付ニ而ニ而正之所来と上而皆返
作候ニ中候者より不申も田居ニ而新所掛より可致

山方之江戸掛ニ而本家中作方ニ而漬置可
申哉之旨存候間例之通見合御掛之御上作

寛政二戌年六月
松平和泉守殿江差出ス　　御勘定奉行
　　　　　　　　　　　　曲渕甲斐守掛
一常州久慈郡久米村惣右衛門支配御代官足候ニ付
儀を申立候一件

御篠山十兵衛殿御代官所
常州久慈郡久米村
名主
源惣左衛門弟
惣

卅六

右之もの儀支配御代官并兄弟地頭江無之ニ付
頭取致兄弟候者共江相頼一類候而及強訴候上
同人儀中右兄弟出奔之上彼是申立諸役相勤
不申者共江頼候兄弟御代官江差越候儀も
訴訟候と偽徒党致し強訴致し候段不届ニ付重追放
右同住居構
右御定書ニ人殺之致方を以申聞之一通りニ申立
候ニ付重キ追放もの之者可被召捕ものの儀ハ支配御代官

頭取之兄弟候而兄弟共江相頼一類及狼藉候
上不届候段を訴訟致偽申立徒党致し候
不届ニ付右兄弟共江相頼候者共も御咎有之候付候
儀ニ付右同断之内一等軽重追放

寛政二戌年八月
松平伊豆守殿江差出
一上総国桑田村長八村役人取計方之儀ニ付
外中立作一件

御勘定奉行
根岸肥前守掛

伊沢内記知行
上総国夷隅郡桑田村
百姓
長八

右之もの儀同村文五郎与細合之儀ニ付
村役人共ニ而申付可致筋ニ取扱候処其もの江戸
返留中ニ而諸雑用七郎兵衛并ニ右押及ひ
残金之有七郎兵衛方ニ而武左衛門文五郎ニ及
離縁ニ付儀ニ付留与相ニ而思ひ候而文五郎を
為致変死之儀ニもて不是之事ニ推量致し
文五郎変死之段一旦他所ニ而申立仕候
七郎兵衛へ申しつけ申承知之事外致し村役人

私欲も無之往中之地所吟味之上我意
申張候も不致頭村役人之張本ニ付軽追放
右伺之通済
右不届筋ニて心中之儀不埒ニ付候ニ付
七郎右衛門病死之後を変死ニて無之旨申
中立候七郎右衛門ニて手前対し人殺しの掛
りも有之右之通宗旨不届至極ニ付
人を殺候者中立候ものゝ一通ニ中追放ニ候

重キ追放 但伺之通ニ候ハヽ重キ
者死罪ニ有之候右之人を殺候者ニ付候故
中立候ものゝ下手人ニ付候もの七郎右衛門住
業之致候中其上ニて不届至極ニ付候
先例も有之見合中追放ニ付一等軽く
一 軽追放

寛政二戌年十二月
多居丹波守殿御渡候写

町奉行
池田筑後守掛

一御書院番一柳勘之丞組本多平兵衛件

御書院番
駒木根大内記組
一柳勘之丞
中間
六郎兵衛

右之もの儀一柳勘之丞屋敷ニ而係継子平
之助を相応ニ取扱相成候ニ付十五歳ニ候處
兼而之取計ニ而外之者へ不申候儀ニ而相添
其之儀を一柳之組方ニ而預之候ニ付願状差出
候処右文之内ニ而十五歳ニ付候ニ付儀重ニ
有中之候儀ニ而上聞相候ニ而不宜儀ニ付候
国元之者へ之公儀ニ而相続候儀之者ニ付其年生
取之取計候處見極候儀之者之次第ニ而相聞候

儀ニ被治定候由預御懇札致拝見候誠ニ大慶不斜候
乍去先以右之みち儀共ニ御座を服之被成存候十分ニ存候
儀も藤椿ニ右様被成候分者遠且ニ御難儀之旨意
御座候上者御様子之段未ニ雖無余儀候段ニ付而ハ御推

右務書

右者常々例之御見合申越候処ニ而年中　牧野
大隅守同前之上御在世中存候而御医師細川宗仙
息子始門宗謙候細川宗仙当年ニ罷出候

尾田平右衛門ニ而相役菅沼藤十郎方ヘ申込
補平右衛門ニ而相分候而有様ニ申立候処
宗仙江申聞候ニ付先達而之趣を以申聞候処ニ而茂
無之由申越候得共申立候段ハ不埒之段相揃候ニ付
書文致目入宰申付候付而御免被成候沙汰不及申候
申渡候ニ付今ニ至而拾人ニ相成候処不見極儀ニ被治定候
然ル処遠々御状致拝見候処右之段候得共御察之旨人
無御座候御事ニ御座候而も御荒被成御推察被成候ハ余リ遠

候而是之節難渋を見兼ね渋を不捨置生
始末之由公家様御ニ付公儀

寛政二戌年十二月

松平伊豆守殿江差出　町年寄　樽藤左衛門書上

一小菅清閑ニ松之助疵負候一件

市ヶ谷町
丹右衛門店
源蔵

右之もの倅長蔵を連立罷出松之助ニ途中

ニ而出合候ニ付同村竹清寺ニ而其儀致し候処
途中ニ而度々村名致旅籠屋ニ而支度酒食調候
献立ニ付致一宿入用諸払も勘定致候得共も
立宿相掛右割合甚六ヶ敷ニ付申達候得共
得心不仕候ニ付致候趣ニ付申上候得共難立
一申上候ニ付取次ニ而此度来ル事頻中国家へ相成
可申段承知致し候酒肴ニ而自分ニ而勘定
相成候ニ付右一ヶ所ニ相成候ニ付右之通

家々田畑砂押下ニ相成荒地ニ罷成候ニ付難渋
奉願候 下拝

右御住居跡

右天明三卯年十一月曲渕甲斐守殿ニ而上於
申付候麻布谷町御屋敷御役所ニ而清左衛門
方ニ罷出候処七ヶ村之もの共ニ被仰付候近辺将監
流土被成下候ニ付右拾ヶ所江相渡候茨之ニ而御渡被下候
為御切替之代銀其外右之通ニ而入用ニ而頂戴仕候

中捨ニ致し平十郎并足ニ而鐵返組作ニ并
係出来合用致之八ゟ代請負取候上ハ平十郎
候右返組作候を致之候組付候先方指とも
差挽ハ下知ニ而機組合下水ニ落成ニ而相続
同村見分ニ及憤り之素り大造ニ而下之も
之人ニ而下水ニ投込候旨申遣之候段不埒ニ付
急度も重ク例ニ見合候上ニ而役人共ニ対
雖然出頭ニ候而速ニ一人宛ニ而酒嘲とも

地中村之者とし作左衛門を村役人家来ニ
なら〳〵候段も素ゟ不埒ニ付在所當所構

寛政二戌年四月
鳥居丹波守殿江差出　牧野備前守掛

一奥州棚倉町忠次方紛失物之儀ニ付一件

松平式部大輔領分
奥州白川郡下羽石村
百姓
孝之清

右之もの儀盗取致候ニ付吟味之上今ニ遂候共
身元も不相分者紛之宿有之候ニ付止宿為致候上致
盗取候末不及自訴候旨申聞候得共吟味中ニ致
手掛候ニ付手傷之疑候ニ付一通吟味候處
棚倉忠次方より致盗取候旨申口相違無之
紀之もの於其筋宿等有之候とも直ニ遂吟味候
一旦請取候儀者申立候ニ付申中ニ以不届致
吟味之上一同是非致申立候間致入牢候

那は右之趣ニ申候ニ付探索之上嘉兵衛太
中ゟハ一件書ニ付願之通吟味之上右嘉兵衛
太之助を合せ衆吟味之上申候ニ付右ニ而も同様中
陳之上当座之証拠を以一通吟味之上別合
致候者ハ当座之始末従嘉兵衛太右中ゟハ夜吟味ニも
嘉兵衛吟味之趣ハ始末之上不届ニ付中追放

右御仕置済

右者戌十二月評定所一座ニ而伺之上御仕置

中村作上総国望陀郡地村百姓権四郎悴長太郎
儀豊次郎を打殺候ニ付女房中ゟも豊次郎儀
捕方致候所不残ニ付儀一旦ニ而店先清太江相渡候夜
同説之右未海添無是豊次郎不届致し作夜
打殺候儀不相叶不届之御当候以同罪五拾里中
立候ニ付追キ発ニ付而清造一味ニ而村役人共ニ申掛候も
探索吟味ニ申候以右も中渡候ハ不届之者ニ付所払
中村ハ村別之見合候当ニ付申右を致し作

不届之御座候旨一段重く被遊赦

寛政三亥年十月

戸田采女正殿御書付　御勘定奉行
曲渕甲斐守掛

一甲州上栗原村ニ居候之清庵方ニ居候醫師

東泉同村政右衛門外弐人儀後々を申立候一件

武藤庄兵衛御代官所
甲州山梨郡上栗原村
居候之清庵方ニ居候
醫師
東泉

右之ことの儀評議之所と申渡方御書付、
遠慮ニ可致申者、其外親類調候儀とも有之ニて
吟味被致候ニ付、被覧下ケ御座候ニ付和
六ヶ敷申募ニ付、上方遠慮候と申ニ付元候
詰延込ニ候致し、別而吟味候は致方遠方中合
一 遣又其者を殺害致候得共、公儀御構
吟味候致方も無之、中足致し候也、然共
不届ニ付遠流

右附仕置附

右人を殺候者被申聞候とふの仕置ニ等しく
内証ニとふの儀も通り候申聞ニて御座候得共遠慮致
親を殺候者申立候ニ付、候様御座候仕置候様ニ可申付
其外親類有之申立候上ニて打首ニ可申付 右之通
一 依之格別之訳ニ付、首を死罪ニ可申付

寛政四子年閏二月

戸田采女正殿御在京　町奉行　池田筑後守掛

一本郷春木町与助方ニ居候長四致中ニ付

一件

本郷春木町三丁目
孫八店
与助方ニ居候
長四

右之者儀当正月中ゟ親類儀ニ付被火

可致旨之人方前ニ把行金子預置候ニ入金作

之首尾出来不申候ニ付取返シ方家主へ催促

金取立申候様ニ致取上候儀賃音板を以包ニ入置

金子紛失致し候旨右金預ケ候を元構之者へ合

江對申候を致し候儀不届ニ付手前ニ而返済

右御仕置済

右安永八亥年由緒甲要書ニ依而仕置

中村非蔵支配町清右衛門店喜兵衛儀因茶
新町茶屋渡世人石井源次方ニ相勤候主人
使先ニ而船人ニ右石衛門ニ於ニ入相済候儀を主人
此ゟ遅く参候致し候後清人ヘ者相流候処
手前中ニ而相恨候を晴し可申と存中
源次見知候を存又ハ木切を持喜兵衛方
表ニて戸を打破木切を振廻り候ニ付之始末
不法之者ニ付向後致候ニ相当御仕置之儀之

中村非蔵ニ見合候例ニ而右之格別ニ不法之
仕方之儀を以御仕置ニ而重追放

寛政四子年五月

松平和泉守殿御渡候書付　町奉行　池田筑後守掛

一駒込片町大円寺天瑞寺門前之女を差置候一件

駒込片町
大円寺店作兵衛
長助

右之もの儀博奕之儀ニ付厳敷御触も有之処

法度相背自分宅ニ而度々七八銭

位之賽博奕為致し、其上恵思召より

貰候勝負手ニ而賭り食備致し候を毎々も入

候段を相頼、同人を相掛及び且大円寺女を

境内ニ差置不束成候とも又返同人中付候

不届ニ付法相候ニ付初而一同仕候右之人々

對不届ニ付手鎖追放

右之往逢附

右寅二月同人上田住直中村ニ而右御春木町
兵助方ニ而作左衛門儀此月中元気混雑
ニ付被食主人方勤之把住宿縁屋江入金
仕候其外見出申而御酒候ニ付被下落請人江
銀合ニ而中村ニ而取主上ニ而借宿板袖江
入金ニ而金子紛失致シ候旨申聞候ニ付取
掛主人方江封シ中置致シ候娘来不居ニ付
宜追放中村ニ而主人合候ニ付御様之息悪を取扱

被し候儀ニ而所村ニ而儀ニも主人江対
勤方ニ而不法我儘成ニ有之不埒ニ付知
早ニ而大念寺暁山中江取扱候ニ而
右例ニ而格別之儀ニ付追放

寛政四子年七月

松平伊豆守殿御渡　　御勘定奉行　根岸肥前守掛

一武州埼玉郡上新田之例組合之内太田新井村
佐太右衛門当子三十八一件

一揚領知
武州埼玉郡若田新井村
百姓佐太右衛門当子
二八

右之者儀、刀持不借之村方致欠落病気
少々足首腐候ニ付、又右衛門方へ参罷在候
而致出候ニ付、土之?鏡旁又右衛門与申者実名
兼而之足を煩候迄、今ニ而捨置候所、当
致出候旨不届ニ付、中追放可申付處、當
不束成所業ニ付、尤佐太右衛門ニ所渡押込
置

右之通仕置済

右御定書ニ博奕之宿致候もの并宿
致世も被候拵之所拂ニ致候もの并宿ニ
成候もの之内ニ而重キ遠嶋又者重
宿ニ而致候もの并宿を致中追放者ニ
御座候人を殺候程中宿致候もの一ト通之
也をもって重キ追放ニ而御定之通死刑
ニ而三候所ニ而重キ追放ニ而御座候もの
中追放ニ而御当ニ而有之郡拂　所拂ニ付

追放ニ而ハ軽中ニ付右人御仕置之遠嶋追放ニ
可成拵ニ而被致申頭ニ在村より引拂ニ仕候
致可被遣候遠嶋ニ而御定之趣ニ而見合可相成候
江戸拂押込之

右同事ニ付御座候
以後御停止ニ通追放ニ而刑ニ而申候もの被致候
江戸拂押込之外軽キ事ニ而も可有御座
其上不ニ勘弁も仕候得共右様之義不叶

所構之者を可申渡哉、中追放之例も御座候
御定書ニ盲人御仕置重キ遠島追放ニ可成科ハ
軽キ者ハ所払村払又ハ鍼治致候事不
申付之遠島ニ而成科之ものニ候得ハ軽キも
所払村払又鍼治差留ニ而之事ニ候可申渡哉
申付候儀も御仕置無之切迫ニ而之もの之無也
不見之儀ニ盲人ニ而同様之御定ニ而可有之
達而も盲人御仕置之御定ニ而見合無

佐渡奉行伺白川渡押込並ニ付而中渡致候事
同様ニ付而伺候

寛政四子年八月

松平伊豆守殿江差出候書付　町奉行　池田筑後守掛

一丹羽加賀守家来三沢要之丞謀書致し

但一件

新銀座町清兵衛店
三沢検校後家
貞心院方ニ住
次右清

右之もの儀三沢要之丞右検校附合
従之旅取持切続候儀も不存候得共
去ル四月要之丞同道貞心院代ニ致し手紙
遣候節去ル当方ニ請内済致し度候
御掛り様検校後家沢田近江守ニ書上候儀
有之候得共此度之儀ニ御座候ニ知同人ニ致
申出候ニ付御掛り経候内済ニて相成候事
有之候ニ申聞致し候始末不届ニ付存

命ニよりて重追放、

右往生済

右両例共見合御定書ニ人を殺候者
誘引いたし候もの下手人中追放よりて重追放ニ
至り候とも其の儀も遠慮取計候へ共右之人
悪心無之代ニ而新規致し遠慮ニ付江戸構請続下ゟし
給資合第外とも出入有之ニ付右ニ併
不相済田畑近江ニも一派所之重中致帝之候なと

候ニ付存命ニよりて前書御定書見合重追放

寛政四子年十二月
松平和泉守殿江出ス　　御勘定奉行　根岸肥前守掛
一　武州入間郡多摩郡之内弐拾九ケ村ゟ種々及
出入候御裁許一件

野田文蔵御代官所
武州多摩郡野崎村
元百姓
三太夫

右之もの儀不埒之筋掛り当表へ罷出
候て出並推量数多同村々之もの見舞
吟味請候ニ付代官に遂糺候合難儀ニ可至
村内多摩寺小ヶ前在之郡々おもかしとの見
情実御取計致し且又其御代官所ニ者措給
兵農ヶ組池村之出入とゆへ元様ニ至願
仮ニ大道ゟ使々合役目ニ御番所ゟ段々訴ニ
御揖の場所ゟ立入ゝ候得共理不尽ニよ付

重追放

右御仕置済

右御定書ニ遠慮申付候人ニ無筆ニ而偽り證文を
認させ候ニ付證文を捨文以為致候者の死罪ニ可
及候処證文を認候ニ付証文を取候ニ付中追放ニ至らし
候ものは御代官所錯誤受取致し候ニ付
不埒之儀ニ付右衛門と申者上ケ所掃除申付儀無之村方
立入候不埒之御座候ニ付押込地方立入候

とのし候而も見合有之品ニ依重追放

寛政六丑年十二月
松平伊豆守殿御書取　御勘定奉行　根岸肥前守掛

一下総国吉田村多兵衛儀中ニ欠落ニ付吟味一件

同吉林大学頭代官所
下総国葛飾郡吉田村
百姓　源　門

右之もの儀多兵衛妻之迷惑及ニ付離縁之上申立之

同人儀ニ差障候ニ付情実ニ取計候も及見候
儀ニ付如推量を以情実と心得合ニ差障候ニ付
致し候処并百姓共之者共ニ而中立を外ケよう之
もの江も金子申受取又ハ押領致し候ニ付
不届ニ付右儀ニ付申渡於郷中引抜取持参之
役所ニ而致し候始末不届ニ付重追放
右御仕置済
右ハ是之申立候通ニ差障情実之事与致渡世之

或ハ難題申掛候ニ付手向いたし疵付候もの遠
此段共奥平ゟ死刑遠嶋とも相留り候得共
死刑之申渡致し候ものニ御座候得共書面之合
殺候旨被申立候ものハ一ト通りニ申立ニ付重
追放姻源キ巧事無之候ニ付重キを軽罰ニ重キを
死罪ニ無之候ニ見合可追放ニも相当り御座候得共
奥平儀不届之筋一向無之ものニ付右ニ御座
此旨右ニ御座候一等軽く軽追放

右例

一去子十二月手浪岡之上御仕置申付候例
野洲村元百姓之右遠嶋候不埒ニ付不届
成候ニ付帳下ヶ其上知推量致同村之者共
吟味を請候ニ付代官追假名合難儀候を為通ニ

一村内ニ万福寺と申寺之部屋ニて殺され候もの博奕
宿致し候由又ハ御代官手代ゟ縛縁有之候ニ
難他村々出入を取り取扱ひ候を大造ニ

謀書ニ而御仕置被仰付候ニ付直ニ拝借場所江立入
作取候事不届ニ付重追放

一 安永三午年久世丹後守伺書ニ依伺之上御仕置
中村非甲州下谷村名主甚内儀名主相勤
御支配被仰付其在出候処御代官手代并
組之締方致候方心懸候ニ付其外ニ而貰致候ニ付
一 身分ニ而公儀重キ採取之儀茂有之候ニ付推量致
右等之取締候を御仕置ニ付謀書組合ニ

御仕置被仰付候不届ニ付重追放
右者例之通三右衛門代官手代候処中立
拝借場所立入候儀名主支配之儀右ニ見合
源内ニ相頼候御定書下谷村甚内ニ見合
重追放ニ而申上候

一橋殿知行
同国千葉郡小野田村

名主
十右衛門

右之もの儀負人無之儀ニ茶済指麦を致渡世ニ
罷在其外金子借受り又之を相借致し候由も
及見候儀も無之和源内任申出候迄ニ逃候ニ付
取扱不申遣し候取拵訴状を偽名を以
奉行所江差出し偽証致し候段不届ニ付江戸払

右御仕置済

右一件ニ付重兵衛ニ逃候ニ付源内伯父共
儀とも訴状ニ取拵弁思ひ振来候由ニ御座
候得共右之人を源内ニ御座候旨右源内内
仕置ニ見合而又一等軽く江戸払

寛政五丑年六月
戸田采女正殿江差出ス

町奉行
小田切土佐守掛

一深川黒江町總右衛門方ニ罷在候文次押込不残
致し候一件

諏訪町代地半左衛門店
久蔵妹聟
久蔵致し候
右 同

右之者儀娘まち与申武士方奉公ニ差出置
候處請状中召文次押込不残致し候ニ付
痛病出来候処年季公門候経候処も江口有
まち上り願出候処夜不差成致方も公事
表まち候而申立文次白状候一件承之之文次
儀押込致不残候ニ付まち儀致し趣旨も
痛之節も儲て相済申候旨状之旨及お頼
判右衛門申渡候ニ付重く申立候始末申聞候

江戸難儀一件ニ付吟味中致欠落候女之
儀ニ付与市被見届候ニ付江戸払

右御仕置済

右寛政二戌年九月初鹿野河内守伺之上
御仕置申付ル但飯田町市之清兵衛
儀並ニ致欠落ニ付同町新九郎店新七儀
同町市郎兵衛店大次郎并武蔵屋名主大次郎其外
南町役所ニ而被遂吟味候処右大次郎儀者存之旨

致度旨同人一ト通り之訴出候ニ付取上ケ之上召出候処
存居候之趣ニ付其之武蔵国新座郡栗原村近辺中一橋殿御領分
右大次郎儀ニ付右之趣相尋候処ニ而同人見届候旨申
大次郎之儀武蔵国ニ而承候迄ニ而不及見届候且新七
其之名前承遣中立候得共見届申候儀江戸払申付
例之通見届候ニ付其女之儀ハ其外ニ而不届ニ付
同様江戸払

寛政六寅年七月

松平伊豆守殿江差出ス　町奉行　池田筑後守

一　公事宿人唯八不埒之儀有之一件

元馬喰町六丁目
同附公事宿人
唯八

右之者儀身持不宜度々御咎請候　石敲之処

御仕置ニ而も不相改右者儀此者共不行跡
致候者共同人方へ立寄ニ付御咎請候儀ニ
而飯酒ニ給酔仕候類ニ而者共ニ立返り右者方江
無銭ニ而罷越別之者合ニ而不法之儀申掛候もの同人江
被申掛右様之儀を請候ニ付別段一同遠慮致知処
其後身不届ニ付江戸拾里四方追放

右御仕置附

右者寛政之例ニ而者当月御免不申候　寛延元辰年

十月馬場讃岐守町奉行之節同十七日於
芝田町長太郎店手嶋源六与申
松平隠岐守屋敷之足軽相勤候者ニ付
屋敷役人江被引渡候処右之者小路途見四郎左衛門
此ハ已ニ相勤候ニ付去年十二月同人ニ而帰し雇
申付候処其后引続年来四郎左衛門住業相替
当八月二日麻布坂下町途中ニ而四郎左衛門ニ
出会候処云々取合候中ニ而殺害いたし候ニ付

打殺候ニ付四郎左衛門常ニ刀を振廻狼藉
有之候ニ就而ハ不届ニ付江戸払申付候例を
見合可申旨江戸拾里四方追放

寛政六寅年二月
松平伊豆守殿江差出

一 日光山御修復御用材木運送方滞候一件　道中奉行掛

元箱根江戸前御用木御預所
当時出羽表武太夫
田邊安房守支配所
野州河内郡上石那田村
名主代
喜兵衛

百姓
喜左衛門

下石那田村
年寄
名主
源右衛門

百姓
又郎兵衛

右之者共儀茂御用材木運送之儀ニ付差遣

請負人共ゟ差合出入ニ及候ニ付御用御林木ニ付毎
年右者押領いたし候由申立ニ付右請負人共ゟ
取極候儀ニ無之請負人共不残今市御代官所ゟ代
出帰一件遂吟味候処右請負不関
一件之儀ニ付対談相済候得共古橋を換
さし候上今日ニ至候迄無之ニ付差扣
取極候上ニ付内済不致候ニ付田人共右及上二申達候
右御仕置済

右安永二巳年安房中務少輔御勤役之節
ニ而及御吟味候上御仕置中申付候武州足立郡
右之村方二ヶ村組頭百姓共役御林木東郷村
出入一件ニ付右之者共年々役御林木東福寺
寺願ニ付右之者酒代請取請負人共役二ヶ村
ニ百姓大勢罷出右東郷村等ニ而当請役人
其段申渡候上ニ而右銭始末不届ニ付遠島
申付候右相手方役人共ニ上二ヶ村ニ百姓共差出

他所者徒党を企候とも相当り候ハゝ相知次第
首謀之外之人を重キ主東名當ニ候
被致候ハゝ、松本橋を掛させ候共
此人一同之儀ハ右例ニ准し重追放者
可有之知者子孫ニても両年之儀ハ伺ニ
此者被下之重追放

寛政六寅年二月　御勘定奉行
松平伊豆守殿御渡　曲淵甲斐守掛
一 野州前原村年寄清右衛門同村名主外壱人を
取押申立候一件

元岩佐仁兵衛代官所
当時田沼安房守知行所
野州都賀郡前原村
百姓

来右衛門

右之者儀先年酒狂之上同村忠左衛門を
及口論疵為負候ニ付右之外抜人ニ而疵平存候て
不束ニ付遠慮之中ニ而疵為負候ニ付并外貫
来候を召捕候ニ付全ク右様疵為負候節別条無之候
而致候後ニ右衛門右逃候段与人を頼候而
来候ニ付当分寺預ニ申付置候所ニ而
其人ニ而致候武人相談之上済方村ニ而

高札を破り人集致し与人を定而情
上新田ニ而科之致押借ニ及び新規ニ申組合
之為集外之人逆縁来り致相撲ニ而松之木
右酒肴懐中ニ而出候而大集取候段無証拠
候を求之為掛銭為致候ニ付賄入を
証拠無之致し候而女房相
之者致候ニ付保置人無証拠候を申立
不埒之至致し候段重々不届ニ付遠嶋

右御仕置済

右追候もの江而見当り不申人ニ疑候一味之もの
不取留儀又ハ偽候不束ニ而当時出奔仕
候上重キ悪事ニ不申立候ゟ取上ケ之旨家
ら於て相集り金銭奪取候段其上書取
強迫頭仕吟味之上召捕候ニ付同人家支配
之様ニ而所持候後之取捕申立候得共其人を殺
候旨ニ申立ニ而御免之趣相聞候ニ付

疑申出候旨右御定ニ准し重追放

寛政六寅年八月　御勘定奉行

戸田采女正殿御差図　曲渕甲斐守掛

一上州下小泉村鶴次郎吟味中逃去不届之段

御仕置伺一件

堀縫殿知行

上州邑楽郡下小泉村

百姓

鶴次郎

右之者儀去年致欠落者ニ候ニ付当国居

済当り候ニ付其の内中ニ而無宿之者ニ相成

年経候儀ニ付其始末ニ付又ハ市場之儀

揚屋入致し御吟味中江戸宿を逃去其上

国元ニ而上小泉村文次郎ニ預ケ置同人方

金子も取候ニ付右之年季無之取候中ニ逃去

奉公先ニ而取押候得者不埒之段ニ付女房ニ遣

宿ニ而逃候儀ニ付御仕置之儀ニ付之通被仰付候

宿主文右衛門ニおゐて常吉義出奔致し
候由ニ付追々追跡ニ及候処右之者捕押
自分之盗財物を文右衛門江差出候ニ付顔手
六ヶ敷中ニ而捕右始末訴出候ニ付
取調候処右始末之通ニ付不届ニ付急度叱
取計候文右衛門おゐて重一件中ニ而御咎
之儀相伺候処文政十二年中御書付之通
之有遠慮

右御仕置済

右者去ル戌年根岸肥前守様御掛ニ而御吟味之上
罷出候ニ付武州那須村百姓七郎兵衛儀
御仕置相済候儀去ル卯年之上之御仕置済致し候者
之儀も其上於右様振る小田原宿を経
事ニ而右取調ニ付取計候処中ニ而
筋之儀ニ付相伺候処御沙汰之上以来右近
家来大原宗兵衛様御家来四郎兵衛旅宿所ニ相成

異書中付以申文も疑推量を以御助外之人罪科
有之家来ニ指緒而若以於家物書置候
出之し度く不届し重汝返無此条ニ入計も
有之族品ニ而遠ニ候中之以猶未有不届
之付遠流中付以例ニ見合候ニ而後も可有之
不届も有之候而文以節ニ付金子不差出候ニ
申も在ニ而公中其同人并不致以遠
死刑ニ可成事も申其法以役人事ニ不届者

其上自分ニ紙并文以節其切以證所申し
度ニ而遠ニ候ヘハ法ニ其以狼藉類ニも
因様ニ依ニ付遠流

寛政六寅年十一月
戸田采女正殿御懸り

一 高野山西方大徳院元住持覚首
弟子共不埒ニ申立候一件

脇坂淡路守
板倉周防守掛
青山下野守

高野山西方
大徳院弟子
観明房
常陸[illegible]大覚寺門[illegible]

最勝院　[illegible]

右之者儀高野山西方[illegible]大徳院覚首
儀を[illegible]下谷[illegible]申立候一件吟味之上覚首
不埒之儀有之遠[illegible]住坐[illegible]後住之[illegible]下谷
可申付旨ニ而済之上弟子譲之例格遠慮
[illegible]被仰付ニ付候処一旦申立て格別之取計
[illegible]非難[illegible]并成立之当役ニ[illegible]結之

金子彦右衛門方ゟ差越候宮内少輔大口ニ而申成家
上田織右衛門ゟ申出候儀を実事ニ致し猶
様ニ御済ニ而取計ニ付吟味之上候而推量之類ニ而
不取用候ニ付其上中ゟ被加筋之儀ニ付上田
織右衛門ゟ取計候由之趣ハ信用無之候ニも
一旦不取計ニ而御沙汰之通より取計候様被相
申渡吟味ニ不取計候而も御沙汰書御定之趣ニ而
咎メ候ニ不及旨申聞候其上御咎メ無之旨申達候

右御仕置済

右ハ明和元申年評定所一座糺之上御仕置
申付候處別紙之通長安寺之同宗寺天保寺
本末之儀ハ内右京山泉涌寺観同寺
天眼寺之方表右馬允方ゟ申立右者人共
并右泉寺方金子清蔵ニ而寺之外之者差出候
其外之儀被相含候子細之者咎メ候ニ付含長
安寺ゟ掛合候寺之外ゟ対し再応被申立

殊ニ其後彦兵衛儀おさくを召連中へ入候儀も
押隠彦兵衛致殺害ニ付近致死失候儀清七与申
俳諧ニ相中ニ而候出家致し且又右ニ付
室ニ而住居ニ有之遠島申付候間且又
猪俣与兵衛方ニ而上田織右衛門相位ニ而同人
より申推量致候中ニ有之候儀ニ付
伴之ニ付右之者召取預ケ一旦右御仕置ニ中追放

寛政六寅年十二月　　御勘定奉行
太田備中守殿江伺書　　曲淵甲斐守
一上総国菱田村吉右衛門儀致ニ疑死候由申之候
同人後家てや一件
青木伝之助知行
上総国武射郡菱田村
吉右衛門後家
てや

右之もの儀文吉相違ハ殊ニ申合之趣を以申候付
悴源蔵并親類村役人共立会村役人ニも
立会見届候処不相違ニ付母并ニ疵も
無之文吉お教候様子ニ而不相見病死ニ相違
無之段申立候ニ付則文吉江引渡し取置せ候村役人
立入之候ニ付葬送入用ニ者相成候之唯七親長儀
ニ付右ニ付則相渡候唯七ニ付仕業ニ而候利之儀も
致候様取計文ハ死骸引取ニ付来ル上者不届ニ付下手人之

儀ニ付申立候殊ニ無之旨願出候ニ付吟味之上右之者共
仕業ニ無之右類相成候ニ付急度申付ニ而不及候今又
相成取計候ニ付右之者共ニ推量之致候趣
申之候婦ハ女ニ而儀も有之ニ付候得共手鎖押込

右御仕置附

右安永七戌年十二月太田備中守殿御渡
年行之上猶同之通取計村役人共江差別而
大久保村作兵衛方ニ而盗物之儀ニ付在方ニ

其家督之先久之丞病死後当四月久之丞實清作候
證文紛之上ニ而遂吟味其家督申付候儀
以後家督致し取立候得共取込候様ニ付
御吟味仕候所清ニ而當ニ而離縁之儀
方ニ而妻子一円引取候同様ニ付久之丞妻
人ニ申立間敷之段申遣候様ニ久之丞方ニ而申書
別紙不埒ニ取計候ニ付而訴出候ニ付不埒ニ付
年月日得申付候ニ付見合候ニ付ハ遂吟味候様ニ可相心得候事

因樣ニ而長之清合金子貸渡候而取扱之由申候
候ニ付吟味之上推量ニ而不埒候中ニ
計候ニ付不届ニ付申渡候ニ付而古例ニ付
不宜ニ付過料五十日押込

寛政七卯年二月　　御勘定奉行
　　　　　　　　　根岸肥前守掛
吉田傳中書殿御代官所
一武州荏原郡馬込村無宿三郎儀盗賊之内申立候
　無宿宝之郎外弐人一件

　　無宿
　　　宝之郎
　　　辰之助

右之者共儀盗賊之始末無三郎所ニ而許無之
吟味中無宿三郎届之郎共人々之捨置之者致
御役所表遠之申之致候ニ付辰之助ニ而宝之郎も
江戸拾里四方追放辰之助も江戸払
　右御仕置済
右当卯九月吟味伺之上御仕置申付候武州
荏原郡馬込村源右衛門儀御代官源次郎取計候ニ付
村方之者ゟ願出吟味候之処右之同村百姓

外之人ニ重立訴出候儀ニも親類共掛合ニ而
以咄合ニ而も可申哉ニ存候追而申聞
数年隠居ニ而も手合吉田又ハ猶俟し家内ニ入
かねニ致し候後一同差止候義ニ付
右ニ付而之事情実ニ宜敷しく又ハ吉右衛門ニ
前々取集博奕仕合ニ以而差止候ニ付遠ニ申聞
此段承届ニ付江戸構ニ付候ニ鳥谷吉太郎ニ
先達而放之江戸構ニ申渡候者之江戸

拾四 江戸追放候ニ而も江戸構

寛政七卯年六月

松平伊豆守殿御差図　町奉行　池田筑後守掛

一　浅草山之宿町勘助申立之上押借り
致し候一件

浅草山之宿町
清七店
勘助

右之もの儀兼而男具にいしと致密通
居候処同人申候之妻さちと其清不届之
旨申出右之通掛合候処右書状以之
妻ニ致し度存意中旨ニ而之章さちも
離縁致し且其之清源之元ニ来親元ニ而売
渡候処顔ニ無致候ニ付右残金之儀先方ヘ可送
手当呈合致可借受と存同人江出公申
此段及承付申付外ニ存さちと致密通

作紙中并金拾両致押借候儀旁不届
ニ付入墨之上重追放

右御仕置済

右者当例相替八月中某者共合金子押借り
いたし候往方之両度にかゝりも因根ニ而仕置書ニ
当度にかゝり之手元ニ而不知不盗取候
とも承往通同様よ追ニ外右重拾両ニ而二両
程を預通候ニ大負傷重ニ而残七両程ニ而金ニ

押借ニ而金拾両借候ニ付入墨敲お当候事中
並預り候方重ニ不届ニ候得ハ候通人数候
当中並預り候上一ト通りニ中並之重追放
とも不残置候ニ紙中並候所不埒候人とも
数候者中並候も因根ニ而有候処如其書
ニ而不残置候ニ紙候しより取候ニ付而用ニ不致
此候以しを渡妻ニ而致方候ニ一旦ニ両人ニ而
致中並ニ候儀ハ存候 右御定之 条 不届ニ付

出定を致見合不届ニ付重追放

同人妻

以し

右之者儀勤職方ニ罷在候内同人之致
密通未夫婦ニ而妻と存勤職妻ニ而
儀其上清之不義有之旨合訴候ニ付取捌
其節自中申きちを離縁申渡後妻ニ致
儀ニ而女之儀自分ニ而右始末不届ニ付

重追放

右同住無済

右之者書中を致しれとの之此定ニ見合

重追放

寛政七卯年九月
戸田采女正殿江差出ス　御勘定奉行

一武州下谷本村百姓外弐人役村役人之外　曲渕甲斐守掛
村方取計ニ付申立候一件

松波庄三郎知行
武州豊嶋郡下谷本村
百姓
要右衛門

〃名主
〃　〃　藤

右之者共儀先年ゟ名主役相勤来候得
共地所之儀ニ付前々ゟ之定書証文
之儀ニ付不埒之儀有之候ニ付御吟味之上
吟味中御預ケ置候組合之者共村役
人并上谷本村東光寺外壱人を相手取地
所之儀ニ付相願候ニ付出入村内ニ而済

畑年貢門右衛門所之儀も要有之物持有之候ニ付下ケ
所之儀者私一円所下ケ致し候ニ付此度採役
地所ゟ難渋申付ニ付先年請取候ニ付又ハ両人
右門方之儀者私ニ付申渡候様ニ而も難相成
之共致候人致し候ニ付右村役人并私共迄者中合
承知之儀ニ有之右門方之儀ハ不取計
所下ケ為致候ハ得と外村役人私欲無之様
推量之儀斗ニ仕下書之程相違無之候

不届ニ付相掛
右之通差渡
右者ニ吉年ゟ限例之上致候ニ付作
豊後国麻木村一件之内安保右衛門存候儀
出生村方之儀隣郡ニ致候得共相談致候ニ付
前々ゟ相手馬同様麻木村江不相掛候ニ付村方
之上者米門右衛門ニ而海瀬村河岸場同
取極之上ニ而者相互ニ申合致し置候ニ付相違

之掛難儀之段申上候之支配替之儀申上候上村
役人支配郷支配申之是迄之段不申上延返
許容し此候不届ニ付御叱不埒ニ付急度叱置
当人十日手鎖申付以例之通見合所払

寛政七卯年十二月　　御勘定奉行
戸田采女正殿御差図　　根岸肥前守掛
一　武州千住掃部宿年寄共書付を以相願候ニ付因而
河原町ニ而ひとの店借之儀を申立候一件

大貫次右衛門御代官所
武州足立郡千住掃部宿内
掃部宿
米問屋

拾弐人惣代
平兵衛
武兵衛
金兵衛

右之外の儀支配之御代官加藤萬助御吟味之上
石谷因幡守様御取扱被成下候之儀ニ付
候ニ付被遊御支配御役所御吟味中河原新田者共
名前并代官手寄等相糺候而被遊御裁許候趣

并前義岡屋市右衛門支配之者共も出入上候
被准罷不取調候処委細并ニ代官被成吟味
之上ニ而御叱之上誠如前々被仰付候而
承知之月六十日ニ頼

右御裁許

右安永二巳年安藤弾正少弼様御勘定奉行
之節御領分上州群馬郡武州南加瀬村
之節右衆御糺之上御吟味之上御裁許之

口書押印取之候外ニ而遠慮之速ニ
遠く候中之同人者兼而相構妻之儀ニ付被
加賀藩邸ニ引渡し候後未落着ニ付十日之後申候ニ
見合之十日之須

寛政八辰年四月　中務大輔

戸田采女正殿御掛　根岸肥前守掛

一豊前国中麻村六左衛門後家嫁ニ付申合

右又者引合訴候一件

羽倉権九郎御代官所

豊前国下毛郡中麻村

百姓

又右衛門

右之者儀名字帯刀も不苦近在ニ而ハ下々迄差免
致形様方用事ニ付近隣之者共ゟ許容ニ及
数形様致し諸失物を方角を以家並ニ尋
候を聞届取計致し悪之取扱ひ候もの之仕
業之由申出候ニ付不届之儀名盗賊ニ而も致
一 卜筮ニて吉凶を申候者 京追放
右之仕置済
右御定書帳ニ例書之内寛延四未年大坂

久右衛門五十日大和屋宮崖之儀浪人家宗
つき之由ニ而買請候ニ付…して十三日借
之儀殺人ゟ侍共致し礼物取候儀不埒ニ付
祝文以来下知止申ニ付去流文中付
佛壇佛具取上げ追放之中付候大坂町
奉行所ゟ同京追放之儀ニ而例有合
御免之人ニ侍共致し候儀之由ニ而
一 神之仕方之人ニ害ニ不成もの都市有

右例之通重追放

寛政八辰年四月
戸田采女正殿御差図　御勘定奉行
曲淵甲斐守掛
一下総国本宗道河岸平右衛門　松之助
殺害之金子一件

菅沼安十郎御代官所
武州葛飾郡鶴嶋中村
百姓吉兵衛方ニ居
栄吉

右之もの儀主君松平周防殺害之重々不忠
儀より相勝者共逃延所々致ス候忠儀ニ付
候ニ付見延候致張訴候者一類同人但中ニ
二名其外之もの共松平周防大臣而致候ニ付
切殺悪忍川ニ流候擬ニ而罪不之所緒老海之
訴状証拠ニ付松平周防を申候ニ付右遠中立
致張訴以吟味之上相当右之通ニ中立候
始末重不埒ニ付二十日押込

右御書付
右之御成年根岸肥前守殿御渡
中村弥右衛門下岩瀬村百姓吾兵衛方致
了よ之変死之始末風呂ニ而縊死大道ニ而隠し取置
相談いたし始末不埒之付急度叱り置候例
不宜旨ニ二十日手鎖

山田仲之進 御預

一 下総国葛飾郡仁江戸村
天台宗
薬王寺元隠居
当時同所遍照院
忠海

右之者儀、全右相手之内ニ而も三右衛門外二人ニ而
申談候由ニ而、凡等ノ及承候へ共不申候
同人妻義存居候得共其段ハ何ヵ兼而
申談候ニも不作法之儀をも承り候ハヽ不束之

訴状之趣を潰訴訟いたし候ニ付、中数候得は不届
之付五十日押込
右被仰渡
右安永八亥年當月江訴書下勘定奉行
之内、自分得間ニて上段外ニ付候段別児玉郡
石川戸部様御支配所名主地頭吟味
致疑候ニ付、其段役人相調村役致候而
ハ猶又相頼書付を以申上ささ候而も相立

候様中條毒人ゟ右混淆之儀ニ付訴候
候段不埒ニ付三十日手鎖申付候例ニ見合
思不宜ニ付五十日押込

寛政八辰年五月　町奉行
戸田采女正殿江差出　根岸肥前守掛
一武州戸倉村次左衛門ゟ御儀以御業訴一件

鈴木要五郎知行
武州比企郡南戸倉村
百姓
次左衛門

右之もの儀御領之儀より年貢請候迄過怠を合
推量致し候ニ付新形候文を集を偽候
以取扱候を申之訴訟之趣ニ而曽村五右衛
百姓之儀ニ候ニ付而当所訴致し右文言御
公之上取上ケ之日限を相果致し候旨新
右之者共之儀ニ而者前取扱書面之候文を地頭聴
申之中ニ立候を済之上外之者之不申遣之書
之もの不届ニ付候通追放

右宿往還

右之もの儀二月同より往還中村ニ而継国
谷間村并同所ニ而逸恨之上雑儀を一党を
存し同人儀ニ差添并博奕致候ニ付及
見逃候もの之外推量致し博奕之者合之
差添ニ拾致し候外百姓共之名前申立
其外子供之もの連置子細申立候之
押借致し候儀申之上右之もの申候之訴状

元禄五申年之御番所被致し候旅来不届ニ付
慎遠被申付候例ニ見合能念ニ因相伺候
伺書　慎遠被

寛政八辰年十月
戸田采女正殿御在所　御勘定奉行　曲淵甲斐守掛
一 野州鹿沼宿ニ元禄年中より南附合宿去郎
相分し候旨之中之候一件

戸田因幡守領分
野州都賀郡鹿沼宿
宇都宮宿ニ
一
元壬生一件

南村出宿
新右衛門

右之もの儀酒狂之上度々致口論、其上付庄
請人合呉見届不和候儀も不相用大酒を好候故庄
清と儀文次郎方江相預ケ候処右之宿門右衛門方江清兵衛
一式之もの儀悪黨之もの共中間ニ相交り候宿内
渡世致不埒候ニ付家主遠ク候中立引
訴出候処吟味致し候ニ付今般吟味之上永久次郎

庄右衛門其次郎又ハ之もの身内門々致世話候並
不申候ニ付遠慮之義右之もの之情実並
宿内致し候ニ付始末不埒ニ付其中之内張
無宿ニ而不届ニ付中追放

右之者仕置済

右ハ旦那書之人を殺し候致中之もの之下通し
申事之もの之定キ追放之もの之情実
宿内致し候ニ付宿内中之仕候

其外ニ御座候ニ付右御定之見合一番帳ニ申進候

寛政八辰年十二月

戸田采女正殿御在国ニ付　御勤役中　曲淵甲斐守掛

一　出宿会所役御国役中会所建被仰付候一件

出宿

会所

右之其外御普請道方ニ而出来候節之元ニ見え候

残又残拾残夜々盗取申候仕上候上山上村
名前不存候得共右同様始末ニ而残銀百文
余盗取又々盗賊ニ付　村役人共相尋
候所逃帳ニ存ニ付盗之由盗取候所御代判ニ而
請出候之上太敷を致附候而相尋候所同村
次郎兵衛方ニ而盗ニ入候ても仕候由仕業ニ相違無之
右之者共ニ付支ニ而右同様ニ而ニ付有之不届
成段ニ付一ヶ無宿ニ而入ニ付役人共申上候

御手当之儀当御支配不相成
ニ付五十日已前ニ上飛人之由

右仕置済

右仁左衛門儀七右衛門盗賊之由申立候者共ニ付天
明二寅年山村仁兵衛方ニ而勤候を盗取ニ付同
之上候仕置申付候所召捕縄天明ニ而所ニ而
同人者召取候仕置候村役人共宛
之次郎兵衛村役市ニ而九人ニ而申之処

入候間相糺候ニ而頭取致候もの一国中不残候始末
不届ニ付江戸拂申付候例ニ見合扱候者共下ニ
ても頭取一等軽く宥免ニ而者ありて手鎖ニも
申付御仕置之義者御勘定所より伺申立候ニ付大概ニ者
難儀およびにて上致候儀ニ候得ハ申立候趣候得共
ことに其もの之道中ニ而外より致候小前之者迄ニ
及合議書ニ而不束之もの共ニ而是非ニ上非人
手下

酒井石見守領分
上野国勢多郡上仁上村
名主　清蔵

右之もの儀者石倉騒立ニ付捕申候頭取ニ付清
致し申合致候也此儀者右領分差出候ニ付得共
仁之清之助与申者致頭取同村役人共之者申合申候
之もの申合追拂ニ候様条奉行所ニ致候儀ニ見合
此様ニ仁之清次郎八右申候ニ而候而何れ尤ニ

殊ニ其上公及追剥致し追々ニ付追踊相伺
而致候所仁兵衛其外ニ而追剥致し候者ニ付又よ
はさみ夜計とれ候て被悪ニ付張候を懸合候并
たけ新六木下ロ言て仁兵衛方ゟ鏡盗取ニ付
一旦某海ニ候を拵え申立候所前書之通ニ付
過料銭拾貫文
右之趣済
右者酉年根岸肥前守伺之上御仕置申付候

武州葛飾郡東村百姓後親ニ而相当を請候無宿
成候新十郎并同人請ニ出候新六娘とう儀
江戸相國寺ニ而渡南品村市右衛門方ニ右両人
方え参り候処も具ニ致世話候善對談を遂し
右ニ而新十郎ゟ礼物ありてもヘ追不相応之もの
難消候と懸旅市右衛門後ニ付其事ニ而取扱
及出訴候て上裁新五郎中其上請申教候て
江戸実名も不礼ニ新五郎を悪党之もの

金銭ゆすり取継十郎方ゟも勝押致し、前七ハ
ニ至済候ニ付拾ヒ候ハヽ探致申旨ニ候得共不届ニ付
江戸構申付候処、其上ニ而候遠候而又頻ニ忍く
御咎ニ付右様例ニ見合格別不便ニ被存
候ニ付過料銭拾貫文

寛政九巳年十二月
安藤対馬守殿江差出ス
町奉行
村上肥後守掛
一神田旅籠町　月番　渡邊如栄及店ニ付

一　神田旅籠町壱丁目
金兵衛店
月番
渡邊如栄

右之者共儀子供門ニ而古着を致売買候ニ付同人
被渡置候元年ゟ都合度々年中少々以候前字
名前是又山岸田酒好者ニ而度々酒ニ而掛札
差出し候得共元年藤治と義并藤蔵を而
中ニ連酒好ニ而右之札相止メ候ニ付其合ニ而私
一此節ニ而雖相止兼申ニ付右之者合酒好之者共
様之同人宅ニ而差戻面談之上申込候ニ付及候
作連酒狂ニ而申、被是等之儀ニ申事ニ而

無職役之方ゟ致探索候処無余儀不得止ニ付
訴掛

右之通無御座候

右之当例ニ而去巳年中ゟ[illegible]当七月九日夜
坂辺[illegible]同之上下往還中ニ付以[illegible]谷坂町
家主丸屋組人岩吉并右遠嶋寄子大久保
右同本長沢并右之儀稲荷町二郎方江雇
之儀順立以知之右様[illegible]以連同人請合

立合候得共相断申候ニ付対談も不致酒
相済之上猶勝負令並茶屋座中ニ候得及喧嘩候
元之主人同様之武士屋敷江立戻候筈不済中
不之者ニ候処此度源兵衛相果候ニ付不届ニ付
江戸掛中ニ付此段相果女正敷之御渡ニ付関東
見分之沙汰ニ付此儀不届之至ニ付此段ニ而
之云中ニ付之候処及不法之事ニ候
之儀ニ付其身も医業候得共候得ニ付候

利欲ニ拘り候儀ニも無之全酒狂ニ致中之上之
之儀ニ付右例ニ不便之ニ付所払

寛政九巳年三月

太田備中守殿江差出候写　御勘定奉行

一武州高畑村元百姓加七義村方与同村八郎次　曽宮能登守掛

申立候一件

山田甚五郎知行

武州足立郡高畑村

名主

八郎次

右之者之儀、去辰中兄ゟ踏込及狼藉候ニ付

其者共村内元百姓加七ニ一同ニ申立疑を受浅

菩提寺地中ニ有之加七之者舎ゟ右地中江加七方江致

同居候ニ付当時迄隣人別之者之

之ニ為加七ゟ願ケ差吟味之上右家被推量疑を

受候者共門前一札并加七ゟ申渡候之上而私共

右加七を請取候得共江戸表ゟ被仰付候地頭被受

ゟ右之者共ニ申渡候処加七仕業之段申立之候

率爾之者計不皆之身過料銭五貫文
右條皆済
一
右者以年根岸紀伊守領同上野介
中間以於分限召預村令之請取夜盗之請
同道之与之飯酒等以後夜盗仕候上以者之搦捕
散以後出仕一夜之無之様万石之奉行人之段
無之様分令成等之飯肴同前之長名右中間之於
両族披之頭主之於下之後中之領主之者

取上之之以右令子之下知返状令書様
之上夜盗之次之後以弱色以麻苧之搦捕上之
済以之懸身以夜中等之請以後之領主之
中之方不行所夜盗之儀麻苧之火之身以銭
之外大逆之中之以始末不皆之身過料銭壱貫文
一
中間以新例之見今過料銭六貫文

寛政九巳年九月
安藤対馬守殿江差遣
一 作兵衛桂拝村ニ居在候而女房儀不法之致
取計候一件

御勘定奉行 根岸肥前守掛

公事方 御勘定

右之者儀女房共之入水致候ニ付取計
候得共右之長兵衛儀借金ニ而銀子返済延引
故之後之女房共之死骸を長兵衛宅ニ為持
遣村役人并組頭之者共封印等不致不法之致方
至而不届ニ付江戸拾里四方追放

右御仕置附

右安永八亥年桑原伊豫守御勘定奉行
之節ニ而同組ニ上御仕置申付候寛政村
百姓新十郎と申賃銭貸金ニ付手帰ニ付其
節ニ相拵右金長兵衛ニ渡し受取候ニ付一札と

婦ゑん致居おり候所右一札て取上ゑゑんを
紛七宗ニ弁候去年三月入振者を預置候
上之ヶ条申掛ヶ候事派方ニて糺明之者有
下人平八并采ニ死罪を差ん居宅展下候様
無之姫末不届之付ニ付追放中付ニ而例ニ有之
品追く以之居ニ付当江戸払望三方追放

寛政十午年七月
戸田采女正殿江差出候　評定公事取扱候書付
一当別須賀村長右衛門寛度申付同村
右衛門清外捨子人理不尽出入一件
小河右十郎知行
常州那珂郡須賀村
百姓源兵衛忰
一　平七

山岸又郎他知行
一 同村百姓半右衛門悴
安七

右之もの儀御法度之同村若狭後家
まつと申者清水寺忠七ノ門迄忍入密情実
致し殊ニ長吉寺寛廣之手合ニ相成候儀も
不知情実ニ上重子賀且以越致中居候
不届ニ付 被 上江戸払

右御仕置済

右博奕致し候者ニ御座候ニ付先年御書付を以
ニ而宣被仰渡知長吉寺寛廣ニ対し
申越致し候儀是之趣同人寒情博奕致し候
寺持之僧 賊長吉寺追放之例を以 右御仕置ニて
可有之候得共被申立候もの御存候人を殺候者
申立致し候もの一事ニ而申立ニ付宣追放
之御定ニ見合 思召之通ニ而被為博奕御仕置

迄も来放之上江戸拂

一

寛政十年八月

太田備中守殿江差出ス　　道中奉行掛

一中山道深谷宿之内字稲荷町旅籠屋庄兵
隠売女致し候ニ付其外十之ハ余衣ハ第新一件

野口辰之助御代官
中山道深谷宿之内

一

下冊

僕

七

右之者共儀者右馬外拾六人之者共ハ食
貴女之右同前溺貴女致済世候ニ付遠
以候者共右馬ニ而送候も合大造ニ中之段
公庭より推量疑も有之間人情変致候得共
畑も渡所作致し山林並木も伐採り又も
旅籠屋拾七人之者共ハ食貴女已人致置
余り採之外不之本遠之候中ニ至源右衛門
勝手無而姓之者備未得居候之由申聞候又之

張訴致し候得共不届ニ付江戸掛

右注進附

右ニ付毎年例之上下往来ニ付候下役ニ
当田村源内殿見来ニ送候之節候とて打
是とも右之笠済共情実致済世之内見候
候而も之旅推量之候情実之ものニ右之済向
拾人致し候内外百姓共之名前之事ニ至る外子
分之者共同共合子細申候又も致相備候趣

取之十両ニ至而中等之外名之訴状預抜取候之
御差紙被下候而も不罷出候者ハ追放申付候ハ
例之見合式之通之儀ニも有之候ニ付追放も可申
右之通御差紙之上致張訴候様繕之上申付ニ
御差上候ニ付其事大層ニ付其外之諸役所ニ而評議
渡世致し候者之御取扱ニ付宜書面ニ要之
訴人之ケ條ニ書付ニ相成候罪科之者之訴出て
或ハ又人之内証ありて之罪科を差免作

右之次第ニ而御取扱之男女ニ致来候之所迄
御旨第書之例ニ合一等軽く江戸払

寛政十午年十二月
松平伊豆守殿江出ス
一無宿与馬流致し候一件　町奉行　根岸肥前守懸

無宿
与馬

右之もの儀當午八月中知人ニ被頼候手次湯治ニ
罷越候もの共申合諸入用雑用同人ゟ請取遣

中仙道ニ付被同人ゟ道中ニ而酒相給不被為居候
をニ而申付年及只偏ニ承知手次候段與兵衛同道
罷越候申立候ニ付存外ニ存同人ゟ雑用
当金ゟ上ゟ取那馬致金右宿衣并代金ゟ
兵衛致人ゟ悦もの之儀手次ゟ所ニ而申せり
漸く致し候もの之ゟを申縄を懸ケ宿次ニ
以ゟしゟ上源谷宿之繋置候所ゟ折節
掛ゟ候処不届ニ付於御申上候中追放

右之件ニ付

右道中加賀守殿ニ而御懸り之者共捕候処
私儀池田雅楽頭細田より之義ニ而御中
縄を掛候宿次ニ致し候儀ニ付不届ニ付候
申渡書ニ添候例書ニ下総原田四郎右衛門
小間平七致盗入置候を取候而又候盗致し候者
入牢申付候儀を宿ニ置毒ニ存候元盗人附置
宿八三郎ニ引合候處平七入置を請

止メ候迄ハ不致候得ハ八三郎を捕ニ参り候処
述候而ハ致し候ニ付加役久松忠次郎細役人
ニ而申付候而を八三郎を捕候仕方不届ニ付
右ニ付候儀も無之ニ付人ニ力ニ而不及被仰聞候
組役人ニ而申中偏候儀ニ付中途ニ而申付候を
相伺之通ニ治定候例ニ見合候之儀も可有之
儀ニも無之ニ付御仕置ニ付差控可申候
御座候ニ付より中ニ而縄を掛候而御仕置

品秩宣旨官敍之上中越敍

打擲之類

天明八申年三月
水野出羽守殿江差出
町奉行
山村信濃守掛

一 麹町山元町源右衛門寄子西川半三郎義
家江封し置候ニおよひ候一件

麹町山元町源右衛門店
控書証人宿源右衛門寄子
西川半三郎

右之もの儀去月八日七ツ時過酒ニ給酔播田
久保町若右衛門町疵候而市右衛門丹後当通行
ニ而不礼及ヒ候ニ付、福田文次郎平治兵衛次
三人之者丹後守中間伴平を致打擲為疵
付候ニ付不届ニ付詰取上江戸構

一
右准並例

右者南之例相見不申、宝暦十二未年備
前岡山之上ノ往並申付候日若播町与之吉居

無之清住無八人之由、寛永十八丁日町内ニ而牧野
是前岡佐之割可致通行致し候ニ付被領
持候中日見持之者共八人共押出し大都而悪者
中にも其代り中日共之清捕之而之被八
之紀以下清之者共清打擲致し額疵付
候儀共も酒狂之一向不覚候中山之而夫不届ニ
候末法外之至極ニ候方ニ不届ニ付重追放
構中付候例ニ見合、右西川平三郎儀重追放

代々江戸掛り来候由、依之平三郎後証有
之候様ニと、公儀江茂以御添書可被仰付候旨
町内之者ゟ願出候ニ付、評議之上右掛り合之者江
申合候上、御請書ニ茂通行之儀ニ付及法外候中首
尾を致寺掛り不届ニ付、御咎之例ニ付上候趣ニも
相成候ニ付、公儀江茂下ケ渡ニ而寺社江ハ候ニ付
江被為遣之候、右之御沙汰ニ不拘、右例を見合可被相糺

右深大寺
堀田文次郎
岡澤秀次

右之者共儀、去ル八日西川平三郎同道ニ
鍛冶橋田久保町若者頭町境ニ而平三郎儀
市宮并後書通行之儀ニ付不法及過言候ニ付早速
召捕可申処、酒狂ニ紛レ及不法候後当
中首尾を致寺掛り不届ニ付、御咎之儀ニ付、相伺候

被召上江戸拂

右伺相済

右之者共儀書面西川平三郎不届方之
得差図候由文次郎ニ而清兵衛海人共被召上
江戸拂

一天明八申年正月　町奉行
曾我丹波守殿江差出候　山村信濃守
一火消役中根内膳組役場中間組頭共
及口論候一件

火消役
中根内膳組役場中間
小屋持
組右衛門

同　十太郎

右之者之儀去未十二月九日東安房之
主人内張役出島山番中同村荒川新三郎
儀を割同人中小性倉沢彼次之改平鍋十郎
一御之彼次を養子ニ而請取相済ニ付常振り刀を十太郎
奪取横押出シ候右之者儀も役者を大倉兼而振
捨右彼次偽物を振り合候不律小太夫一同ニ而白

川連条ニ而城東不届ニ付両人とも江戸拂

右ニ而仕置済

右之者去ル午年八月同人上ニ而仕置中付ニ而右所役
河稲太事役場中宿清太郎次郎方ニ而相勤候
而ニ同月十七日取捉其上ニ而上川急七ニ而南り有
留置候之儀ニ及ヒ上ニ而相改ル道中通取及口論
殊ニ広井平之助相宿者事ニ而一国ニ有之別段文
川南ニ而儀を企相ニ而好酒狂ニ及ヒ人ヲ刃傷ニ及を

捕押不申候上者其場を立退候義ニ付迄
平蔵仕業ニ而致候段浅五郎儀平蔵相談之
身ニ而無之と難申候其場ニ居合不届ニ付浅五郎
儀ハ江戸拾里四方追放次郎吉ハ手鎖ニ而
江戸払申付候石渡五郎例ニ見合候ニ而
従者之儀ハ死罪ニ成候江戸払

天明八申年五月
鳥居丹波守殿へ差出
一尾張殿御家中方抱屋敷八十八ヶ所猥ニ作
町奉行　山村信濃守
市ヶ谷数寄屋町之者
抱者人
孫三郎
要略
右ハ其後度々二月廿六日彩吟味済御奉公

侍衆しものを被申拵候て出合門より申宥
岳遊候處彩ゆ後得ニ而書座にて諸近如何沢者
相手を逐きよ候かさま申ニ而ニ経（?）深中迄之隠候
酒狂し上とて見定りさて如何様にも申宥一中如
然て後女人ニ而被申懸候て申明者右下目記
一 侍ゟ身大猿両用相延京火ニ書座長座ホ
申懐候旅来中候後不届之申女人見被上江戸締
元和八（?）
右御仕置済

石井当ニ例の見不申候去ル午年同ニ在仕置
中村候而西町深之居之又郎浅源酒て
辞候振子ニ而芝辰見掛て被申中居候而
不申開被覚ニ而中相違ニ申
木次芝辰切候にて速案り存申者候而
不申入中暮候て夜斗前一通如式家方
家来を被申辻役者一同被申懸て上意を
樹行切を持被申而細に成候而羽柴八月

源氏并侍従中宮所之茶多参上常茶候
組居を板以テ其間畳居ニ所多差渡より把出
者ハ長ホヘ瓶之汲世も銀姫程ニ竹編中取
奉上名号宥板庭貝法乃多木取様ニ候
立花物ニ茶法より菓記右始末ニ中取組儀
可相定之上各之源頭ニ以後茶使者致之上
師進致一ト中付知宇座敷焼之良致也之
師而自致之上江戸掃中付以例ニ見合以外右

孫江府要用之前人之被之之宥ニ以後例
ちりを取申候之程以自女人茶致之上江戸掃

寛政元酉年四月

牧野備後守殿江差上候　町奉行　初鹿野河内守掛

一御先手同心上原清之丞不束之儀取計候一件

元火消遠藤織殿組同心
当時御先手安部平吉組同心
上原清之丞

右之者儀兼而身持を不慎等閑之儀有之候ニ付被召放候

仲ケ間同心共江悪口致し候旨相聞
殊ニ組頭刀（ママ）向ひ不法之儀共有之候段不届ニ付家
内引越候様申付候処其以後組頭所江罷出候
得共右之儀相知候処猶又組同心仲間江相掛り
難渋致候由等相聞候ニ付吟味之上申渡候
而存候処取計方等有之候ニ付右之者其身
不届之段相違無之候旨申渡候処不束之方不埒
之ニ付百日押込

右江碧済

右之もの儀意趣以其の宅ニ而付ヶ置同心
并ニ寄を被忠ニ殺候を疵付帰参乃方ニ而下
中立両様ニ而候得被僕ニ而召捕候ニ付其の外遠島
被仰付候也一ヶ条ニ而御十手ニ而御定之自然ニ而
屋ニ而連れ来候ニ付娘を引取其後被仰付候ハ右之一通り
候ニ付御吟味右科ニ付及ひ候得ハ遠島一組ニ而も相尋
以来ニ而可遂被仰付ニ而御沙汰ニ而飯急度慎候様

伺之通例之趣可見届候而石日押込

寛政元酉年六月
牧野備後守殿御差図
一常州笠間村平六妻を下総国大橋村林助外
壱人致掛合一件

御勘定奉行
曲淵甲斐守掛

任常陸国笠間支配
下総国葛飾郡
大橋村
百姓茂兵衛悴
林助

右之者後夫之去ル元信楽ニ罷在候処密通
致し罷在候後平六ヘ致密通及候処銀
恐怖ニ付上屋敷何方ニ平六妻子を平六致欠落出奔
後家くら方ヘ罷越候由同人方ニ罷在候処
平六妻子共両人罷在密通致し亡妻ニ候得
共外ニ存平六ニ遣ス後ハ妻子共返候様申ニ付
此上取調之返候得共平六ハ偏及候致
来掛右林子剋取候得共儀ニ有之十日目頃

右人ニ職分ニ而者藤治代職ニ付而多少相成人
百姓を渡世ニ致候得共ニ付其身者去年六月を致
出精ニ候ニ所職分候得ニ付相応ニ去年六
月ニ居候而者子を捏ニ付而者其身ニ付
安永七戌年奉行所江御届候所御褒美被下候年ニ付
手限同ニ而上下分中付ニ而下総之儀上相成候ニ付
百姓与左衛門深年久保村方住居之者ニ而御用
右川様ニ付ニ而被仰渡候ニ付を見届候ニ付褒美ニ

同村

百姓　石次郎

右之者儀去年六月出火致候ニ付候一旦ハ
中首尾ニ候得共一己之儀撰前之事故去年六月中迄
出精ニ付御褒美被下候付去年六月を致並揃ニ候不構候ニ付
二十日過之頃
右ニ付相済

被致候處宣主申合理不尽ニ夫人ニ疵付を
為脱持候酒代金請取候段不埒ニ付夫人共
六十日手鎖申付候例ニ而今右衛門ニ而六十日
手鎖五次郎も被申付候處正月二十日手鎖

寛政元酉年閏六月　町奉行
番頭丹波守殿ゟ出候　山村信濃守掛
一御徒番高力源蔵殿士波多野友八致口論候
一件

町奉行
初鹿野河内守
中川
[illegible]

同人押足輕
大橋要助
中宮瀧之進
同　喜助

一夜ニ入とも同様候先立かこつ法外之儀致候
者有之候ニ付分も中須賀丹蔵へ相断置候
夜出ニ成候ニ付此方者吟味方役場へ相届来

浪士頭多賀友八須進取押候者共其儘召
捕置候様相尚り此上者致し候而も不宜候
友八を無御座候様一事と相手ニ付須進と
友八多きより相須ると存し候右様召捕候儀者
御座候由ニ付候ハ不宜
公儀法外之雑言ニ而上様之儀無御座候様瀧之進
一同須賀様御主ハ須賀さセ方ニ而被友八
両組之面々も不残召捕様之儀無御座候様之称

中之口ゟ罷出一人ニて赤坂宿迄参ニて元袖ケ崎
之者共中跡ゟ参候處武家方相勤申者共ニて
右始末不届ニ付於御当地并江戸構候
右八人之者武家奉公構申候

右御仕置

右去申ノ十二月同年上旬仕置申付候大清役中根
内膳殿役柄中山勘小鑓持組右組十太郎儀去未
十二月九日夜出之ニ付家来之者共召連内膳殿被為嶋ニ

途中ニて用付候處深沢新三郎儀を呼留同人中小姓
倉沢銀次ニ為を同様ニ銀次を
差出候所右擬常長刀ニて十太郎倉田振
押留候者右組之儀ニも振差を倉田振捨右
銀次儀相構候ニ付組之儀ニも小太夫ゟ出候
渡邊之者共不届ニ付参人を江戸拂申付候て
見合せ候之方儀ニ付又八渡辺進候者共ゟ
支度いたし差上知行之儀ニも御改易之儀

要助申ニ而不悉
公儀御目見ニ上候ニ付、込ニ致、右掛り之者尺ニ而
御同様ニ茂清要助ニ江戸掛り御役高外八ハ
荷扱致し候之者之付紀伊家来ニ者公儀様二
口上之

寛政元酉年八月
町奉行
初鹿野河内守
鳥居丹波守殿御渡候書
一 紀伊殿家来松平十郎右衛門小者林蔵取計
出入一件
大目付
牧野大隅守ニ而申渡
長坂持
万助
右之者の儀、主人信光ニ而紀伊殿家来松平

十郎右衛門小者林蔵儀浪士之者共五人罷
越候ニ付南ゟ上江浪士共内ニ而割込振子ニ付算
被成候時脇捕押候段語も不致候迄理屈有之
ニ而其者を持左候長柄ニ而林蔵を殺候段
兼而浪士共ゟ手荒之儀致間敷旨度々申達人
一右之中并三人候迄も不申聞かさつ成致方不埒之付
江戸拂
右御仕置済

右安永十五年二月牧野大隅守伺之上御仕置
申付酒井修理大夫長柄傘持林蔵儀主人
供先ニ而浪士共長谷川備前守村井大井上
某屋儀松平周防守足軽坂根留七與申者
町家前水溜桶合木之根足ニ而百石横ニ川御
致出擲り申者之方ニ発足ニ其者請取候太平安家来
浪士組ニ而西川大平沢右割備前殿弐人供立て
入口端ニ而登を不存ニ而其向通ニ供之陸り

以後之儀も右様不届之者有之候ハヽ速ニ来取落合与
之者持歩候長脇差右実否不相糺見
咎七左衛門ヘ渡シ実否一通り糺候ハヽ所持者御咎
余ニ相与ニ召捕候振放候ニ付嫉未理不尽ニ致故任方
武家方ニ相勤候身分ニ而不宜筋ニ付追而
寄江月江戸掛中付候例ニ自分取計所江戸掛

寛政元酉年十月
牧野備後守殿江伺書差出

一上州上牧村要蔵方江忍入候盗賊一件

但勘定奉行
曲淵甲斐守掛

松平右京亮領分
上州群馬郡山子田村
百姓
総八

播磨國飾行
同郡半田村
百姓
辰五郎
松平大和守領分
同郡八木原村
勘之清店
待太郎

右之者共儀兼而申合盗致来候ニ付
當郡辰五郎儀庄八與入之衆似寄之者中ニ茂
相談一集之上庄八を臨發寄辰五郎待太郎ハ
庄八を縛り三人ニ而致手擬出所ゟ争作知れ
氷沢村傳七方ニ致旅宿居候庄八を下ニ而
之趣之者中ニ付氷沢村迄ニ付連参候津中
待太郎ハ脇差を抜蔵向又右八をも三人ニ而
縛り致手擬疵ニ庄八儀難儀ニ迫り右八ニ致

中追放及附宜重キ上遠島可申処以追放敷
敲以者人を殺候得共不埒ニ付三人共五十日手鎖

右之御仕置済

右安永六酉年右中村衆例之上御評議中付以
武州足立郡吉野原村清助倅主人信光
東海道原宿ニ而詰木文右衛門居場帳付
十左衛門と加賀藩人足之儀ニ付中付を不用
以追放倒以下家九右衛門宿を以手叶候段文右衛門

中崎同人并伝蔵事八十助清八同十左衛門を手
擲之上捕縄を掛候始末ニ付如何様共上
杉品添之儀差免之上色々申立候御詮議中
追も中陳以候得共不埒ニ付三十日手鎖中
付以此例ニ照合伝八へ捕候て可申付旨
申渡候段以遠ニ伝八并伝八へ相放候擲文を
捉候を被成候ニ伝八も并八右衛門ヲ致し以
及附宜以候ニ付不埒ニ付遠島之次第候段

致ニ無人を放置候ニ不念ニ付、先例ニ合せ
不埒之旨ニ而入牢又十日手鎖

寛政二戌年十二月
稲葉丹波守殿江伺書　御勘定奉行
根岸肥前守掛
一越後国今坂村清之丞倅〻中立ニ付清蔵
一件
福田久右衛門御料十同
代地
幸助店
八右衛門
右之者儀下請證文も不取置差出候

中右之清房を嫡子ニ致し孫七方ニ下清を立
武家御奉公ニ者公之家督を持清幸多る実名
を荒ル難を勤ル外者公ニ而も家督
仍有之由緒者猶又外様奉公ニ者公之家督御
小笠原と猶又書中ニ被認候得共有参候得共
賞も候中徒而猶清房ハ不仕取之邪之為と
御進被成料之家門ニ而も中被下候夜散
其上口ニも書末寺被掛候不届

右河戸拝

右同住居附

右同知七家年曲淵甲斐守殿ニ之
相渡候上同住居中有之山田利左衛門
家督後松平大和守殿謁頂師林井尚隆
方二而元禄十二月十七日ニ被罷出之
御之身尚隆中右ニ仕官候其の清立尚隆
方ニ而者公ニ家臣ニ而悉略之此儀此者宅ニ而御帰宅

家来之者裸ニ致し草縄ニて縛り置候致候

其外品々盗取候ニ付、右中之丈を以死罪之處、依申口

打入柱ニ縛り付候段、衣類を剥取、其上強盗致

擬候儀忠助若之を為し通盗取候得者

忠助中之作法ニ上ニて者、初発之思惑中ニ而

強盗ニ而も無之、盗取候者ニ而至而衣類

始末候儀ニ候得ば、兼而ニ付右申付候例ニ見合

不及ニ付、例合之一等軽く江戸払

盗賊等有之者

此後例ニ申上候六左衛門も桜井尚隆方ニ奉公ニ

出し居候処、右忠助を躰ニ家来之者裸ニ致し

草縄ニ而縛り致出来擬候ニ付、主人尚隆伊中右ニ

忠助も盗人と疑候儀ニ而、忠助を主人へ疑

受候ニ付見候ハ、六左衛門ニ請ニ而清兵衛を右衛門

之儀ニも無之、八右衛門ニ而ハ不宜中立

作左衛門其合百両ニ付、従来忠を後ニ付中法候ニ付

未熟故ニ掛候科之者ニ而唐寄候道非
証拠之内論無之故若狭ニ証拠ハ取上ケ
始末を右例ニ而不埒之見込ニ付而ハ掛り
中上作

寛政二戌年四月
松平和泉守殿御渡　　町奉行
　　　　　　　　　　池田筑後守掛
一　氷谷町店借孝兵衛盗ミ一件

露月町
吉兵衛店
吉兵衛同居
長兵衛

右之もの儀傳兵衛方ニ奉公致居候ニ付主人
若松屋新五十郎江申付候而縄を掛置候處
致し候段取計方を可有之処加判等ニ者無之
縄ニ而二階江上置候而戸障子を流敷しかも
猶又右衆組揚置候而連来ニ此儀取計候而猶又
一 要石致し候(中略)子細ニ付候而縛り置候而
手疵上り候而被取候段不埒ニ付三十日手鎖
申付候

掛合之
右御咎済

御定書
一 酒狂ニ而人を打擲
致し候もの

療治代銀為出候もの之
諸道具取上ケ打擲ニ逢候
もの江可相渡候、若
無之者身上ニ応し候もの

所払

右之通ニ候得者長吉儀御仕置重キ御定も
有之候得共之もの儀ニ而酒狂ニ而打擲致し候儀ニも

分之事於波多野入道以之有主人之義宮候而
波多野中務丞景繼自以條言一紙ヶ條捨
削之由雖申不及糺明候令之被斗
方も一同之知行之年紀之由而忽候被停
一 右波多野方之所帯之所務之追而可令申
候之旨之狀如件 文永十年十一月十日 頓

右主人
若宮次郎殿

若十郎
右之子細條所任義元波多野入道後家長妻清
中務丞以之訴論之由結り重以状中事以知行年
之事之条之以之被斗方も下重之知行中
之然而長之清之仍中重以被長之清義
蒙御結り重既事之緒儀女子徳之上之後者
賜以後不及是非之由己非之貫文
以後者

撲之事

右御仕置済

右者御定書之通見合候以之外似寄之例
茂無之見合中右長崎書ニ而御差之通見合中ニ付窺
見来ニ付ニ者御当之過料三貫文

右御尋ニ付御答

此後酒狂之御定書之表例之類紅門御尋有之
見合當似寄之例も相見不申ニ付御仕置済候

宣之候取ぞ中上り候ニ付兼而寛延二巳年
六月経摂肥後守方御渡之御発中付候例有之
且限拘り候例書ニ而不申上候得共右例ニ而
見合且他より差入自殺いたし候者文とも致置候者
下取迄桂之方御仕置相済縁組致候得共十分捨
可数探致しい分之若者家方とも有之候得共
既之訴も不致内隠之入済いたし候ニ付而
初年之ものニ候得い無之ものとも上ノ藏賣致候へとも

及申旨資家絶致し候得も二ヶ所中相続
道人ニ而ハ相交略其外ニも大造之一宗之
義ニ付相致不容易事ニ候処右体之者共繕ヶ候上
厳重致し候儀も当二一通り候処見込候儀ニ
御座候得者相文御尋之節ニ得与御答可申候
最早清僕ニ而流派相成候処二而入念之義
之儀殊ニ其人之続合中ニ付上ニ而儀ニ付不相成候
其十郎儀も内緒之儀ニ付御答之上及申有資候

其後之旨致置候得共内ニ而門徒宗之
者ニ而御触之旨ニ而可有御座候其後ニ付出之書
申上候通一体ニ而門末之者共ニ例も無御座候
二付前書之通右之段ニ付頼之段申上候

寛政二戌年正月
松平和泉守殿江差出
町奉行 池田筑後守掛
一宮津権太郎雇中間利兵衛及取計候儀
一件

寄合
宮津権太郎雇中間
利兵衛

右之もの儀主人并宿ゟ九度ニ分かさ之請取
之後段々奢致中間仕ニ付去酉正月十三日
主人供先ゟ借請候合量も酒ニ給酔致候
長吉与申もの不与心得違之及挨拶候
不届ニ付長吉を致打擲候而相掴候とも不
恐供先を不顧不届ニ付右始末及不届ニ付追放

右御仕置附

右安永八亥年八月牧野大隅守町奉行勤役

中伺之上申付候大坂西宮浪人文右衛門儀
度々御触も有之候処右之取計仕候かさつ
之儀無之様相心得人々申付中並ニ紛布者
在所ニ相抱之浪人共を播州浪人主殿頭前々ゟ
松平丹波守浪人共ニ不召抱段相成ニ付候ニ付
おゐて取合ニ付相集而相立不埒不届ニ
付重キ追放中付(?)候而悪事不仕
之上申付播磨国之所払申候様可申渡

仕候上摂国一中付候例ニ而人合右衛門清次
中追放

寛政二戌年六月
松平和泉守殿江差出候写
一　竹坊近江守家来小村藤次捕方合力申出候一件

町奉行　池田筑後守掛

支配勘定
西村左太郎倅
横山与七

同人申口　仝断

右之者儀去ル酉十二月廿九日主人西村
左太郎方江小村藤次申掛金子合力之儀今
来り彼是無心ヶ間敷及狼籍候ニ付町人
要太郎宅江連行候右ニ而も不得止又々弁太郎
方ニ而も藤次を見当リ御法度之儀申聞候得共
当相手ニも致し方も無之有之候ニ付後日人弁太郎

四郎兵衛儀被召放候旅宿武家方ニ而勤候
身分ニ無之ニ付、身分不埒ニ付横山幸七殿ヘ
二十日相辻中務殿ニ而急度被仰付
以上
右者人ニ而村役次ヒ甚五郎方ニ而御三絲
手ニ而被召放候ニ付七兵衛ニ而申渡候
二月 横
右ニ付附

右者前ニ例有之候処、安永二巳年牧野
大隅守殿御代ニ上ゟ被仰付候ニ而松平内蔵頭家来
辻六郎左衛門中務殿平儀麻布溜ニ而罷出候
源五郎儀当時八方ニ居候吉五郎儀女事不
相渕若ニ而若及旅ニ候ニ付吉五郎
甚一同紀ニ存候得ニ付渕ニ而紀相役ニ而取計
吉五郎一同ニ而御儀女八方外ニ而相
吉五郎ニ及旧編相合被寺擬不ニ付猶以不埒

一昨二十日押込申付候横山与七儀、侍ニ而
組合預ケ并擬ニ候例、全ク不束不届ニ付、右を
主人へ今申付候連續ニ付筆ニ法外之儀を
申立之様ニ紛り宜敷組合預ケ并擬ニ候儀ハ一種之
処置ニ而全ク其儀ニ申付候旨、右例ニ見合、二十日
押込合申付候ニ中ヲ以儀ニ而五旨右之
旨意ニ無之候也

寛政二戌年八月
松平伊豆守殿江差出ス　御用番
御勘定所御用懸
一組頭御扶持人足及不法候一件
安藤長門守
中留
平岡
長太郎

若州
平太夫

右之者儀ニ人長門守被仰若州平左衛門
者ハ使番を相勤平四郎其子代々ニ出勤
下上水塚指ニ候ニ付紀伊殿人数指出候
其より立合候ニ付其所より見候而之ニ付之候之間
之を遣し候而様指上り程間鑓大鐘打指出候
其より其内相文事を見候而所まで使番

之者ハ右之入り見事ニ出勤平四郎相勤
候處遣し候処根元を指候ニ付平四郎扱
其後ニ又者成候ニ進其処内衛門次ニ付使番を
奈良ニ付於口下ヶ置六七人ニ道遣し所ニ付平左衛門
若州を相勤候ニ付使番ニ相成候ニ付振舞ニ付若州
掛ニ相待候処出ニ上水堀ニ花房人数ニ見事之時ニ
之者共も刀を抜き掛り候而一門近ク殺ニ付を白波
候ニ付其儀を候ニ付右候者堀楯様ニ不ニ候

作之及申也一ヶ年之外押置候付半紀渡人
平治郎方へ預ヶ置申候処去辰年役勤候ニ付為給
上ヶ二月不届之罪ニ付四ヶ年二十日押込

右京殿御附

右同組之戌年六月去辰鉄砲方同心ニ而由幸
自作松平鉄砲方家来滝本左馬次方之馬
口付若九郎儀松居町出火之節駈付候所
儀馬口之付取合候ニ付下火ニ而相持候処不埒之儀
鉄砲方馬口付清八并ニ鉄砲方同心一両人之
ニ候得共右之者方へ参り不届ニ付清八儀
実ニ而候儀申之者四人及口論候ニ付不届之付
二十日押込申付候段相聞之実
尚及口論候儀ニ付之候不揃之儀不
一ヶ年之外之押込置候段半紀及口論候
儀之付同相二十日押込

寛政二戌年八月

鳥居丹波守殿御差図

一 池之端仲町丈六源売女一件　町奉行 池田筑後守懸

市ヶ谷田町壱丁目

六左衛門店

長吉

同所八幡町門前

清右衛門店

鍛冶屋半

源次郎

右之者共儀丈六住居板橋宿旅籠屋六右衛門方ニ職

長吉儀ハ同人を致世話候ニ付三人之者相懸り売女

渡シ候儀之儀、細門より繕宜敷門及差図

候段不届ニ付、右之者共

右通仕置申付

右貴女抱主ゟ差出し置候一通之儀ニ而　右

一件之内丈六ニ見合ニ而も取調候ニ付差留可申候

寛政三亥年三月

松平伊豆守殿江差出　町奉行　池田筑後守掛

一木挽町喜文郎及理不尽候一件

木挽町二丁目

喜八店

喜文郎

右ニ付後庄住寺六角判甲州家康内ニ
被仰付候上公之旨ニ付萬事不可然様ニ而
去寅正月廿六日酒ニ酔候得甲斐守清人
久兵衛を見付候而其上家来之を以候而罷
此段ニ而御頼ニ公方ニ申上ニ付而御上ニ候
一被レ申ニ付其上段々ニ而挨拶久兵衛候而長屋
宮左衛門ニ付候而則以後ニ而精進一同ニ而
中ニ候様を被遣宮左衛門殿之内ニ而候

付ケ候ニ其後ニ板切申候ニ付其後小出所家之
候ニ付而則ち別而武家ニ對酒狂ニ付御申ニ付候
可被仰付旨被仰付候
右御仕置済
右以後秋二酉年十一月土屋越前守番所方勤役之
良同之上ニ而弁清兵衛所ニ而同傳馬
庄酒左衛門後同下又右衛門庄左衛門酒屋ニ而市
方ニ而因所家田所代地屋之清左衛門之清

御蔵奉行支配請負方御蔵小揚大揚助八組
者与八及口論候処与市儀殴懸り候ニ付与八世話人年
以前之遺恨ニ而相手与如何様ニ存いたし候段
申なし殊ニ橋ニ而与市を殺害致候ニ付
与市儀代僕七日之内橋被下候処ニ付
死骸同人儀酒狂之上相果候段訴出候処
之逆ニ而所拂中同人太吉郎儀死骸同人儀
合在方江罷出一件ニ付徒士相手之不届

推量を以而致吟味候処於板切ニ而参掛り武家ニ
対及理不尽候段不届候例ニ見合所拂

寛政二戌年四月
曽我丹波守殿江差出ス　　　　牧野備前守掛

一　奥州棚倉御番所忠次方紛失物之儀一件

松平式部大輔領分
奥州白川郡金山村
告兆人
茂蔵吉

右之もの儀棚倉御番所忠次方江差遣候所金子
壱之儀申聞候得共不相知同所告兆人茂蔵十二歳相
成候所右申口之趣を以下新宿村茂左衛門
を手掛致し申紀候得共宿方之者申合盗取
候及白状候付茂十右衛門申候得共宿方
申口之趣を以白状之通り申来候処之節
又茂左衛門者共手掛候得共見届
候儀を以遂吟味之上申候得共

中ニ而致候ハヽ申達之上ニて兼而出入證文を
致承知候様出来候ニ付、願主之證文請ニ而右始末
相済申候、右出入證文ハ取扱人不残相渡候
候而も出入證文を致承知候ニ付致返済候ニ而も合
中済之筋之上ハ、公事方ニ而ハ申口之趣意、出入證文を
兼而之済口證文致承知候段相違無御座候、江戸掛
下御奉行所ニ而申上、御吟味之上、取扱人之儀ハ相当之
仕置一ニ申付候ニ而済出来ニ付、扱人共ハ相済

扱人仕置之事

扱人之身分ニ而出入證文を致承知候段不届ニ付
急度叱リ、公事方ニ而ハ申口之趣意、出入證文ニ候ハヽ
之外ニ而済證文を以遣候ハヽ其儀を取遣相済候由
一 稀ニ済證文相渡候ハ、致承知候村役人共ニ不届
取計候段ハ済證文相返候様申付候ハヽ、公事方ニ而
公事方ニ而ハ申口之出入證文を済證文と申立候ハヽ
申立之出入證文を致承知候ハヽ兼而之儀を以相

一返ニ而中陸ニ而差上ヶ候儀ニ者不届ニ付急度右
無急度之来御仕置重ク候ニ付猶又右様之儀とも御座有之候義
茶書太敷之請ニ付而者取扱例之通合ハせ掛合
向之事ニ而及延之趣ニ付此段申立候処重而出会申談候而仕置
可申旨申合中済ニ相成候謀多取計旨申渡

寛政三亥年五月
松平和泉守殿江伺書　町奉行　初鹿野河内守掛
一元飯田町能右衛門ゟ相掛候一件
下柳原同朋町
弥右衛門店
源七
外四人

右之通申上候去年十一月十二日出船ニて在府
安国橋際廣小路薩摩屋張子供頭之木戸
番頭清兵衛八郎兵衛入口帰七兵衛郎右衛門
候所ニ参り候所飛脚遣し置候ニ付右御届之上入候
事清兵衛八郎兵衛方ニ而見届ケ其上續之
一ども早速申中ニ而右御届之候中ニ御届ニ而
見届候ニ付其大勢ニ而家業之儀ニ付遣候
處ニ而及御届申上候ニ付安之清兵衛相届

右衛門方ニ而見届人并八蔵安兵衛両人ニ而木戸ニ而
之外之者手搜方御用ニ付七兵衛ニ付立番之遣置候
並新御用御渡候ニ付御糺之上夫ニ而願上
事ニ付右御届申上候様ニ而是又御届申上候
不埒之者又人之訴状掛り

右之往来御届

右以和之戌年十一月仮田御用所ニ而代官上御届
中村ニ而深川永代寺門前仲町ニ而右衛門店

浅八外二人儀去両国橋広小路ニ而茶屋町壱丁目
見世物致候ニ付両国ニ而生人形見世物致候由
付属様之者ニ而大勢国入口ニ而生候源七
と申勧化致し渡世候幕ニ而被何候ニ付見世
物道具未持候而迄ニ而編続取申候ニ付
主帰何之所引も出し大勢ニ而申口其更未手も
見見届掛合候所未不得ニ付三人共ニ而一同掛中付候
例之見合同様所掛

茶屋町壱丁目
茂兵衛店
亥助

右之者儀両国橋東広小路ニ而葭簀張補理
初年より女子供を雇踊芝居本之様成所
中之様ニ而狂言ひいてを上て見物所之
支配て請候ニ付渡遂威ニ而様奥貫候ニ付
出者人寄之為ニ而右渡世致し度旨申偏ニ而願り

人次郎与清右衛門会致候処世ニ居り候ニ付去年十一月
十二日銀壱貫匁外ニ人之ニ付而木戸番庄兵衛ニ而渡
口論及ひ候ニ付右様之者刃物ニ而両所相撲失ひ候ニ付
候を憤り致忽ニ及ヒ候得共縄り無之候ニ付而も致
其趣ニ而上吟味之上右者ニ而可不届致候ニ付
旅之疑ニ而差遣旅籠屋ニ而不混雑之上致散乱
此名前相知遠中之候上始末方不届ニ付江戸
拾里四方追放

右仕置附

右元文四未年十二月被仰付候間以上御仕置
申付候中橋旅籠屋右衛門方庄九郎与清右衛門
展候儀大丈夫之趣聞意兼而致申立之木戸番江
掛合濫理を謂り小遣之旅銭呼致方有之上口論
其之上ニ而差遣候処右様之者如此之儀不届ニ付
江戸構申付候例ニ見合此上之儀を補理無之候
子供頭之国内ニ而口論ニ及ひ候ニ付右様之述

雇置候本所当店右三郎与申者を請置
候処損失有之候を横領致候ニ付上訴ニ掛
之上吟味之上不届之趣ニ付急度遠
中追放申付候処不届ニ付江戸拾里四方追放

寛政四子年六月　町年寄
松平和泉守殿御差図　小田切土佐守掛
一 麹町三丁目嘉兵衛店中間ヲ致相掛候一件
麹町三丁目源兵衛店
源内方ニ居候
嘉兵衛
右之者儀元足随致来候以手続書安兵衛

新次と酒請合候上致他行候ニ付留守中善七左衛
持通ニ花を蔵と取捨散々ニ打擲いたし候上
右場を渡一ト通と得と申所ニ如来酒札ニ至迄
申理不尽之致方者不届ニ付江戸拂

右之仕置附

一 右明和九辰年七月牧野大隅守伺之上仕置
中間増山對馬守足軽平川八十八方ニ居
六左衛門倅信常足軽手当源七妻 八

申合銭湯ニ参り御用ニ而不足居酒屋ニ立寄
酒給候所及酔出来之上連立帰人居家
門出入刻限と定も有之候処罷出源八小松
代町二丁目往還ニ而同町四丁目嘉右衛門店
平三郎方ニ居候善七同人姉おかね店嘉右衛門
ま之丁目七右衛門店源清妻かんと行逢候
酒ニ給酔候ゆへ八十八儀も善七持居候挑灯六左衛門
方善七胸ぐらを取理不尽之致方及娘若候処

武士方被差出候節者是迄之通寄合席ニ而
御用掛り中并ニ例之通見合同様ニ而御用掛

寛政四子年八月
曾根丹波守殿江差出写

町奉行
小田切土佐守様

一 此様新組惣次郎及不法ニ付

町奉行
池田筑後守組同心

原田和多次郎

右之者儀出ニ而集礼并済等之大神楽ニ
出張致候処同所鳥居前ニ而新組惣次郎外

此人数出張之段ニ而様子も不相分候ニ付一橋殿同勢
而為ニ而も相紛敷者ニ而罷通候様不致候ニ付擾
存候ニ付取計ニ而上候彼是割ニ而罷出候門内江
御役之中罵出来候ニ付捕候ニ付揉合
候得共大勢ニ而右門内ニ入候門十ヨリ相揃
一 濱御門内藤ニ而右ニ擬候処後大勢ニ而手ニ而及
手ニ而集候所中立候而右之者ハ内ニ而不相捕
押籠遠慮候様手鎖ニ而被仰付不届ニ付三十日押込

右御断
右者当番之例者見候而右之者大勢ニ而
及手之叢候ニ付右之者内江入候不捕押
為遠慮候様手鎖ニ而被仰付不届之趣ニ付
三十日押込

寛政五丑年五月
松平伊豆守殿御渡　町奉行
一小網堀町吉七倅政次郎致出奔一件　池田筑後守掛

小網堀町
彦次郎店
吉七倅
政次郎

右之者儀当丑四月九日叔父幸次郎及口論

出奔ニ付右幸次郎取り候所子細も不相分
其外ニ茂吉七吉良方ニ而当人尋当を
太郎儀ニ致出奔候所右ニ付旅出一旦近在江
及帰候江戸徘徊可致御府内致徘徊候ニ付
宥免を以御払
右御仕置附
右者去子十月同人よ申付候桜田御門外ニ而幸次郎
儀同人江致相談候得共猶ならぬ

杉本久太郎方ニ抱置候を披露致し当七月
出火之節紛失人七太郎儀久太郎懇ニ
久太郎抱長松と申者之三右衛門を誘及出掛
候処右廟前ニ而口論致手負候右
始末不埒ニ付所払申付候ニ付右之者共儀も
右之儀ニ付右之者を捉不法ニ致手疵候ニ
武家方ニ而当人ニ対し候儀ニ而御例ニも不届至
此旨江戸掛ニ而御役所向訴致し候ニ付

首尾之儀所掛

寛政六寅年十二月
松平伊豆守殿御渡　町奉行
　　　　　　　　　小田切土佐守掛
一宮賀玄庫役場中宿亀次郎外壱人疵負候
一件
　　　　　火消役
　　　　　宮賀玄庫役場中宿
　　　　　　　　亀次郎
　　　　　　　　有平

右之者儀役場先ニ而かさつ之致方有之旨
町人合申渡も有之処同正月十日夜火事場ニ而
主人之供致し鳶子共を擾与町場より請し
兵右衛門儀外組出来込合混雑之中ニ而逢
猪田拵深者出馬先江不相参候処彼是手柄ニ
不思鳶子之先を守罷出候ニ付其者一方様ニ
町方小人共七之鳶子共を手ニ而打払爲致
其逢ニ而儀を見分て引理不尽ニ打七を捕候

旨殺害擲候段かさつ成致し方不届ニ付
異人共江戸払
右は仕置済
右安永六酉年三月牧野大隅守伺之上仕置
申付候紀伊殿技持人足長兵衛儀屋敷中ニおゐて
かさつ之儀致置候度々殺人之申渡置候処
当酉正月十七日夜溜池松平右京大夫屋敷
門前ニおゐて口論及人殺ニ付右技持人足長兵衛

外之人足二百人程召抱紀州屋敷其外も
立入候者之内中間抔之者を殺害擲候を
見受訳も不承乱狼藉之者之様ニ逢迷惑
候段松平備中守手下百姓共を傷ケ暮候旨
殺害擲候段不届ニ付江戸払申付候

一 例之見合江戸払

寛政六寅年八月　町奉行
右同備中守殿江伺　池田筑後守掛
一小倉馬上町利兵衛倅吉太郎乃流外之一件
小倉馬上町
五人組持店
利兵衛倅
吉太郎
右之者儀守屋安國外ニ茶を売持候ニ付

辻番人右同次左衛門方ニ奉公致し居候処中
暮同人持店ニ而茶集致させ候ニ付上店
宅ニ連参仕候処吉太郎儀酒ニ而又致させ候ニ付
川尚重ニ候酒狂之上御法外成仕方不重
不届ニ付遠慮
右ニ付仕置申渡
右寛政六寅年七月能勢肥後守町奉行之節
同人江御仕置中付候上野町加兵衛店勘四郎

将監右衛門儀当別生国村多門寺宗旨ニ
寺請状持参仕候処小浜様丹波守殿衆と
勇ミニ組ならず迎ニ参候辻番人殺候ニ付郡司
悪心を申立ニ付辻番人彼者角ニ而一類を殺候
者所在判右之旨付新助四郎殺害会ハ
儀を取り立ニ付逆之偏候而殺害死に候
親を隠し生国ニ而何れ共通りに逢儀
中村ニ而吉五郎を殺利左衛門殺入牢之儀ニ付

候ニ付入牢申付置候処逃去ニ付召捕候処辻番
人を殺旁及法外ニ付利右衛門ニ申付
辻番人左衛門方ニ而殺候右例見合
申渡

右
利左衛門申付
又郎左衛門

右之者之儀主人利左衛門将監吉五郎仕候

来年を建候ニ付子細有之乱如此候處吉三郎
儀も若者致相撲候段理不尽之仕方不届
ニ付 軽追放

右同件並附

右常吉儀例之中上ル一件之内池之端新町十兵衛
店平吉儀上野町勘四郎并勘吉郎不
法之儀を致し辻番人ニ頼候ニ付勘吉郎を
制之中如此吉兵衛儀辻番人江依頼角之並持出候

異様を着用候段狼藉之仕方不届ニ付
軽追放申付候ニ見合軽追放

寛政六寅年十月
戸田采女正殿御差図
町奉行 小田切土佐守掛
一浅草寺地中次郎兵衛方ニ居候徳次郎
江揉場而已立入候もの一件

浅草寺地中
吉祥院地借
佐七店
次郎兵衛方ニ居候

入墨徳次郎妻
はる

右之者儀夫徳次郎儀江戸拾里四方追放ニ
成候以来ニ而江揉場所而已立入候由も得と承知
候上同人儀理不宜致候儀致し候とも見遁し
留も不致同人儀居次郎兵衛方ニ罷在候場所而已
承知在留も不致段も承知ニ居次郎兵衛方を
致し始末不届ニ付叱

右御仕置附

右宝暦九卯年正月御用取扱衆伺之上御仕置
申付候女并新吉田町武平同者之清兵衛辰次郎
錦端次郎女房かん儀丈端次郎儀先年遠島
不構江戸構又は江戸拾里四方追放ニ相放候
其身下総国西葛西領下平井村安右衛門
方ニ参居候所丈帰ニ相成如去ル年十一月
取捨場所ニ立帰り居候所右町ニ而如右之儀候得共

御構場所ニ立帰候丈之儀ニ付而不届ニ付不構
申付候新規例ニ見合せ候上次郎之儀但シ
庄次郎を放候得共不埒も御免之所ニ無之未身
以後之儀ハ右之旨同様不構

寛政七卯年二月
松平伊豆守殿御渡書

一 本石町壱丁目清兵衛店住居次郎兵衛及口論候一件

町奉行 池田筑後守掛

本石町壱丁目久七店
清兵衛店住
又兵衛後家しん
吉次郎

右之もの儀酒給酔之上銭湯ニ参り込合候ニ付
持居候小桶外湯入之ものニ打当候処賃銭者和
候之場ニ而海表ニ立出候御触之もの門
須表ニ出候而絶ニ於石株ニ而殴候ニ付外之
者小児長切等相拾へ来り候而も奥迄
之者ニ相候ニ付不来之もの同切ニ付而申宮之通
取之者場合近候ニ付相来不届之ニ付右之趣之上
江戸払申付出致自分御預ケニ付右之通江戸払
右之通仕置済

右之儀ハ子年二月伺之上御往来手形并女手形
五人組持広平三郎揖斐平左衛門酒之総辟
武士方往帰分賀当分務之もの上京之節持
宰右衛門持被成候様ニ相成候ニ付去未年
賀当分務之もの久隅厩挿候ニ付元引ニ相願候
下弥法之者ニ共今ほと面談ニ成身分以後源相之事也
中不届ニ付右宣被之上江戸掛中身分例ニ見合
同様ニ共同所ニ而論之場ニ而一旦済遣去年ハ遣ニ而宜敷

自然往来之者往来無拠之ニ例も御座候ハヽ猶
宣被之上江戸掛一身分自然被成ハヽ身
差免さんハ江戸掛

寛政七卯年十月
安倍対馬守殿御番衆　　町奉行　小田切土佐守掛
一山猪六尺加藤文七殺候一件

山猪六尺
　笹屋三右衛門組合
　西九坂下町借屋勤
山猪六尺
加藤文七

右之者儀当夏場ニ而辻合候行太兵衛儀実
南与力扶持も不致候ニ付存知候ニ付
不致都而不取扱候儀中ニ而酒狂之揚
之身ニ而一行与実否之段相糺候故
無証拠焼抗之者共所々ニ而取付候
付候ニ酒狂之躰見請候得共右之分
之如者共両様共所ニ而改候事相違無之
由申候所方不慥ニ付二十日押込

右之類附

右者両吉両人之例ニ而見届候節宮居又
吉等八月後日相果候ニ付上江申出付候ニ付
留置居河野豊前守へ申上候処公儀より与之儀被仰
宿口江鉄炮差遣申付田沼主殿頭ニ而申上候処
新銀町半六店清之清儀也、其外右之脇
実南榛右衛門を召捕候ニ付得与相糺候ニ付
者逃去候を捕押候を振放し候得共、候様不致候
毎僅度存之候段申も一言も難相成
小刀を清之清たる手を突疵致候而附
候得共兼而見出候得方不届ニ付五十日押込申
付候新例とも今更五七儀も不埒ニ付在留
二十日押込

寛政八辰年六月
戸田采女正殿御届書　　小田切土佐守掛
一神田紺屋町金次郎御場所ニ而被及論候　町奉行
一件

神田紺屋町弐丁目
茂兵衛店
金六方ニ居候
金次郎

右之者儀木挽職致し神田橋御門外御作
事方小屋場江罷出右御場所ニ而日傭賃銭
定も有之処賃銭割増之儀一同申談致し
罷出御場所ニ而清兵衛与申者申談之上酒を給酔
金次郎儀兼而不和ニ而右申候儀不承知ニ而殊
非得と同様賃銭割増を取候儀ハ案外ニ存候迄同人
罷出候木挽小屋江立入悪口致申争ニ而被
打擲候後御場所ニ而揚合候も不相成被方不届ニ付

江戸構

右之仕置ニ附

右木挽得眼劉増長致候者不埒之儀有之ニ付江戸構
不届之儀不恐悪口申懸其後又々不届ニ付
以前宝暦十二未年三月依田豊前守伺之上
御仕置申付候南伝馬町弐丁目石之清兵衛
悴平次郎外六人儀御大工頭福田久右衛門相
同支配之者共右同伝馬町へ参り清兵衛其

以下之者安堂甚兵衛ニ付借小屋相申人足差
河岸取締方ニ付御用之節中入用候ニ付雑之中ニ立
拾候ニ付不届之儀ニ付例ニ者不届ニ付江戸構申
付候類例ニ見合江戸構

寛政八辰年八月
松平伊豆守殿御渡
道中奉行掛り
一日光道中栗橋宿中田宿花咲村与掛合出入
一件

池田十郎兵衛中宿
花咲
村

右之儀道中栗橋宿之ニ而中田下宿より主人

譲宿ゟ在職ニ而旅中之儀ニ付安業内ニ而之者を
連候挑灯ニて相尋候処右之儀様之眼ヲ以下宿ニ
而差出夜宿方ニ而之者も見遣及口論候ニ
相合割相手方次郎兵衛ヲ取込主人方へ紀之者
相違ニ候処中之右在之候趣承届ニ付主人
方之眼ニ出生

右御仕置済

右去ル子年小田切土佐守御上御仕置申付候

田原仙右衛門申候今年儀ハ去清より罷帰候
芸預り候儀とも同人ヵ保候ニ付七半海ヵ和尚文
小夫清方より参り同人弟預元ヶ版表ら門出拵合
候加衛支人与四郎ら不届儀を申性候より
相揃ニ罷在かくらニ飯支候始末武家方飯勤
不来ニ付ニ人方ニ而勝手次第ニ取中付候ニ付内会
勝手次第

小出大隅支配所
日光神領中鉢石宿
大沢町
百姓
喜惣次倅
万次郎
右之者儀何用ニ而上宿之儀ニ付役人ニ家来
とも不存候上茂往来之者之由実南り候ニ
有之候一ヶ申付候之儀相雑ニ申候ニ付事起り

拙者手ニ被申擬君侍人并紀ニ長州遠ニ候
申之候得共不埒ニ付之二十日手鎖

右之趣済

右御書花押例ニ申上候中間今年一ヶ年内
神谷町借店当ル店小兵衛後ル先ニ而留居候處
中間今年二ヶ銭貴候ル處銭てもとの中にも
殖之武士こととのゝ対　右者高売ニ付買候
百姓之　雑事中候ハ々ニ書花押合候娘共不届ニ付

三十日之手鎖中身候而見合之三十日手鎖

寛政八辰年十月
松平伊豆守殿江差出

御勘定奉行　根岸肥前守懸

一　武州伊勢原村市太郎致変死候一件

大久保山城守領分
武州大住郡上粕屋村
百姓伊兵衛悴
伊八

右之もの儀兵次郎庄兵衛市太郎一同酒
狂之上三人之もの及口論候ニ付一旦取鎮候処
却而打擲ニ逢候及返し候処市太郎
庄兵衛疵受候ニ付罷在候ニ付悪口を近寄り
其之清方ニ而ハ鉄致候もの右口論ニ不携候
中俣村方江帰り候為探隠し置候而不揃
之儀ニ付五十日手鎖
右御仕置附
右者寛政年中ゟ浪人同様ニ立上り出奔中年々[illegible]別

福良村百姓清七倅多次郎酒狂ニ而上様ニ而
延縄猶又負ひ候ニ付以之外取押方も無之候
如何之仕合ニ而候得共右倚ニ而其上ニ而相成候ニ付
由申聞迷惑ニ付追々相応ニ不束之旨急度申付
並ニ例ニ見合不束不届ニ付三十日手鎖

寛政九巳年正月
戸田采女正殿御差図　町奉行　小田切土佐守掛
一 尾張殿家来之者所七丁場不掃除かさつ成儀
致し候一件

尾張殿
大清家来之者
肝煎
所
七

清六

右之通り尾張殿火消当番之節致所見
兼而役人合かさつ無之様ニ相申渡置候上ニ付而右
帳面弥無之様一橋殿神田橋御番衆より火
之見ニ出当番之節之内常子を以埋田稲荷小使
方之当番挑灯を指さし入り高撒致し及
理不尽之取扱ニ候ニ付致無相当之面々
者捕押様を立返り候御構方前をも不恐かさつ

致候方不届ニ付右之人足江戸構

右御仕置済

右安永六酉年四月牧野大隅守同役江御伺之上御仕置
申付候 紀伊殿抱人足共若者儀就業中かさつ
致且義者兼而役人より申渡置候由而正月
右ニ日夜湯屋打平松本吉右衛門火
之見火消人足ニ而右抱人足共長右衛門外人
一同常子を持罷出候ニ付右之者

中間稼之ものを致方掛りを見受候次第
不取究狼藉之もの与存候迚無姓名ニ取扱松平
縫殿頭中間熊平を傷ケ候ニ而致方掛り候
不届之至ニ付江戸払申付候例見合江戸払

寛政九巳年閏七月
松平伊豆守殿御懸り　　御勘定奉行　石川能登守掛
一越後国岩地村市兵衛外弐人猟業ニ而同国
下石村城平外壱人と及口論疵付候以後
出入之一件

松平越中守領分
越後国苅羽郡下宿村
百姓
伝平

水主

巳郎之清
外四人

右之者共儀石地村市左衛門持船ニ縄を
取候節平門上ケ浮キ掛ニ而手を差ケ候不案
一紀り市左衛門之及ハ掛りをも左衛茂不致
但之雑云わよひ之先之揚櫂を奪合候ニ
持居り候罪市左衛門ハ当り之者貝当り

不届成事ニ候ニ付始末之為右之通一同不埒ニ付
五十日之手鎖申付置右之内巳郎之清ハ二年ハ
同致入牢之者同様ニ而不及沙汰

右候仕置済

右之ハ宮年根岸梶原浪人之上
山形中付ハ下総之栄清村百姓小右衛門方ニ
居ル源七外六人仮重落之次之清右ヶ所
致改重積大致し候同人中海

臨乳取計方も一ト通り知次兵衛組中右衛門
一円済方出來ニ付又々吉野屋宅ニ而義作殿
次兵衛書付差出ス女人重義を方へ掛合致し
病身重病ニ而果ニ船木ニ東取ニ而限不惜
三月七人ニ内十日ニ至リ漸下ニ付知らせ七分之人
日数入牢中ニ付ニ当ニ宥免ニ相成し不及
沙汰ニ右ニ付今度ニ例ニ見合ニ人ニ而十日
手鎖ニ而出牢済候而知右之内一同衛書

三年七日数入牢ニ付出牢ニ不及沙汰

寛政九巳年八月
戸田采女正殿御差図　掘坂清渡書抜
一武州王子村卯之助儀同村源蔵を及殺害候
一件
安居
金次郎
右之者儀王子村卯之助仲間ニ而人不持之畑
高切取候ニ付蔵子を持主源之助より同村源蔵を
及口論酒之酔之上ニ而打擲之上追卯之助
儀源蔵ニ疵付候役とも不存居候不束
之付急度叱り
右御替済
右不束之而御免ニ付急度叱り
右御構無之
此儀先年之右例も有之候ニ付御当之通申上候
此度金次郎儀を卯之助仲間ニ而申候

茄子を持参之由候ニ付而茄子切ニ小刀を
持被罷在通見り候処右刀何方を見返候迄
右源蔵中声ニ候而筆記及口論金次郎雑言
申候迄同人を源蔵押伏被打擲候ニ付申之由
儀源蔵ゟ為手負候儀ニ而候ニ付金次郎今
口論仕候ニ付ても金次郎ハ有之儀敷候人先難申
而論源蔵儀宣既を出仕候ニ申之由一円
及口論打擲之儀ニ候而は済而不埒之義難申

一 源蔵ゟ申之由ニ瓶并ニ候を酒之碑不存之段
不束之見込急度叱り之上ニ候所仕居

寛政九巳年八月
松平伊豆守殿江差出　町奉行　村上肥後守掛
一小出信濃守中間喜助外二人及法外候一件

西丸御小納戸
本多大和守中間
茂七飯取
角平

右之もの儀詮儀先人かさニ付中間喜助儀被申聞

右度々御觸も有之主人よりも申付置候儀ニ
有之候処当七月十一日主人本多大和守中間小出
信濃守之内遠ひ居候同人与口論中間喜助
儀相手を致実証理不尽ニ及候様存念ニ而組
侍并中間共召連一同相合候段見届
有之ニ付其時分先記口論之者喜助と掛合
同人儀主人之法を一取々其外之もの
共一同法様ニ有之候人儀も馬場御屋敷

仕候ニ付被成候而不届ニ付江戸払

右御仕置例

右相当之例相見ヘ不申候私儀元文年中飯田
豊前守殿御奉行勤役中御同人ニ而申付候生駒
主殿頭家来ニ而生駒大膳殿役儀者中宮松之助
同様家持御平役之人大膳相手同断ニ而
条ニ至り候而松之助御平儀之不届之段不埒至
候処同役能登守殿之儀者家持かさつ之事之
御平ニ而家業も無之上ニ而御差構中ニ而御免之儀候者
中宮ニ而七ヶ年之上御入用ニ而相済一同済之
誰殿御差構之儀者能登守殿ニ而中宮ニ而被仰付
殊ニ博奕相止儀不埒右之段相聞候而不届ニ付
江戸払申付候例有之ニ付本儀ニ而相済
相果申候仕置ニ存候而取計置ニ而一通之知行
御存寄ニ而御座候得共相記り相合相済中宮之儀
之内主人様ニ而も其以後不法之儀ニも相成

此後ニ茂之例ニ見合居石垣室も有之候百
姓共ニ付両年後江戸掛り

寛政九巳年九月
安藤対馬守殿御尋　町奉行　村上肥後守掛
一三河町三丁目清之清後及法外之一件

三河町三丁目
源太郎店
清之清

右之もの儀当七月六日夕方山田犯濃当二疵中
罷在権吉方へ参り酒を無心貸呉候様申ニ付承引
不致右之代銭下ヶ置酒八合安兵衛方ニ而
無銭ニ而貸呉候様申ニ付拘条致し候処代銭相拂又候
二合無銭ニ而貸呉候様申ニ付拘条致し候得共右代銭ハ
一貸呉候様申ニ付難致旨申断候処不知合候
同人条り八合又ハ酒二ヶ度造利ニ入ニ無銭ニ而
難渋申立不仕儀之済之候段不相済事旨候へ知

依而条り引分権吉を連彼所之飯盛等中宵
追而長七方へ権吉ハ偏ニ候を申ニ付清兵衛
口論ニ付不承候処事果一同打擲ニ及右
安兵衛を始廻ニ罷越安兵衛依而儀致候得共
出而権量を以申ニ付候儀ニ付不致ニ付無斗方
一下知ニ而候得共万方中宵ニ成存在候
及法ニ而始末者不届ニ付不拂

同人召仕　傳之清

右之者儀去七月十六日夕方山田把清
厩中ニ而権兵衛与八文分之酒二文ニ而利ニ入
居候処ニ而右銭紙入混中ニ而及口論
相企権兵衛ヲ致手疵候ニ付信濃守門前ニ而
権兵衛を追懸り翌十七日右同人清安中宿
ニ而相果候七日右之儀申立候ニ付被召取候

清之清両人ニ而此集ル右両人を致手疵之
清之清も両人之疵受候上安之清依而
儀右中宿ニ而御探候所依清之清並ニ推量
之ニ中之儀ニ者両人召仕之者ニ而武士方
中宿之者右様ニ付御仕置不相応ニ付百日手鎖

右者附

右者両之例申聞候寛政元酉年初鹿野
河内守殿へ御勤役中伺之上申付候以来被成

請負所売子同前之請書市方ニ而住様八
外之者人（右）本市方ニ罷出候節同所石川左門
中宿利之清理候得共及ひ候ニ付而取扱方之儀ニ而
出之候得者当寺ニ而勤候中宿共ニ御座候ニ付取扱
諸色之段不埒ニ付二十日手鎖中付候例ニ
見合様例而不宜ニ付過清之書付以所掛
請之書付を以百日手鎖

一　西尾隠岐守書院番頭
　　山田氏浅吉殿中宿
　　　　　指出

右之者儀当七月十六日酒屋清兵衛方に
参り酒売代銀不払候而取立中知候而成候ニ付
取付候ニ付請掛而中宿同人定而も安之請
方ニ而差出候中付候清之請書代銀取掛ニ
之今取寄右代銀代銀差出中知部而ニ

中右済掛候得共済相之上公外ニ存候得共位
一同ニ付清之清方ゟ文銭積八文宛之通方法村ゟ
入用買ゟ是ゟ相願候半ニ付書記清之清ゟ
仕清之清々掛合并掛ニ定ル候ハ酒相之上ニ
中武家方公致シ候ニ付高不都合ニ付江戸掛

同人中百
半助
長七

右之通之候儀当七月十六日仕候事様有候
清之清方ゟ并掛ニ而候儀ニ付取計書付内之
方ゟ半助并文銭被置取合并掛ニ定ル依頼ニ
付ケ候儀ニ長七釆り被置中ニ相円文半助
候も并銭得編ニ上毎人之并掛ニ定ル候儀
候段并武家方致公ニ付候ニ而不埒ニ付
武家
東公掛帳并出

右御仕置済

右者前々例も無御座候清浄外之人ニ
見合候例書之内赤坂御門番石川右門中間
利右衛門儀赤坂表伝馬町壱丁目清兵衛店
市右衛門方ニ而蕎麦代滞有之候儀中間
之身分ニ而蕎麦取現金ニ無之候而も不苦候哉
不申右ニ付三年之仮ニ付右申聞候ニ付市右衛門
彼方不出能在之迷惑ニ付同人右住吉八権
通ニ付蕎麦代之分も実相迷去候由換之後

又ハ権八儀当今ニ付猶又兼候而も上
権八之内ニ而当候度市右衛門見世之迄
頼来同人方ニ而相挿結帳面書付中間
之勤ハ身分ニ而別ニ不届之者ニ付其上相掛
中間ハ例之見合ハ相慣候ニ付帳面を内規
作法之例ニ申上候利右衛門儀も権通ニ而商相売
蕎麦之道も其ニ換さし右之者も迷惑ハ又ハ去
御役中ニ而逃延ハ相成帳面ニ見合候者

右儀及見来換さし候様ニと申権右衛門願候
申立之内本記ニ無之候儀ニ付例ニ而不帰方ニ付
権右衛門儀江戸掛申渡候旨此段武家
奉公相帰候也

寛政十年午六月　町奉行
吉田清十郎殿江及答　村上肥後守
一小普請組雇之者七郎及跡目願之一件
小普請支配
小普請組
雇之者
七郎

右之者儀御肴役所江出雇京橋南
新石町を引当ニ而本金子ニ候付当月
七日相手清次郎当方掛合同日京橋ニ而召
捕ニ相成候処右之者不届ニ付入墨之上重敲
右御仕置入墨之上門前払ニ相成候処不届ニ付遠島
一 当時払之者ニ而追々吟味ニ及候処
去御徳之者ニ相成中追放遠島
賀節可被申付候不届ニ付遠島

右御仕置済

右寛政九巳年十二月小田切土佐守伺之上
申付候相模国高座郡座間宿酒狂之上
相手折し金平奥江出所々持兼
不存候儀伺之処入墨之上遠島
申渡之事所ニ而相候処中無之可遣旨
右難有中候酒狂之上相手
仕置可被仰付旨不届ニ付遠島申付候

此上の儀ハ雖為中山伊勢守殿相尋候処
高松相続済候得ハ法正孫入之門候
此段為之ニ而割通之趣申之旨申上
此段ハ不例ニ見合格別軽重も伺在之
可被成之候不構

寛政十年八月
右同佐中書殿江相窺　町奉行　村上肥後守掛
一 本多弾正大弼殿抱萬太郎養子縁組一件
本多弾正大弼殿
萬之丞
太郎兵衛
右之者儀当六月十七日殺人致候旨申立候

亀五郎金五郎一同酒給合候上ニ而帰候処
於途中ニ金五郎亀五郎と口論およひ打擲ニ及ひ直
ニ別レ候後又候亀五郎ニ打擲致候木挽所
ゟ石塚方ニ而召捕候ニ付良済碎出同人をも打擲ニ
ね搥ヲ以追出候ニ当追掛候処同所己丁目
忠江郎宅前ニ而見及候ニ付同人方ニ而頼ニ居
候儀ニ打寄候處ニ打候ニ付振中ヲ抱合
候ニ付郷ニ而出会毎人ニ而表石実ニ無之荒ニ

ニ付連候ニ付面部其外所々ニ疵相也及
疵多者有之分抱候由忠江郎ゟ怪我
下手之下當人ゟ拭ニ而自分ニ而毎日手當り
医師ニ而良人ニ仕業ニ而打遠之候中之
候儀者木場ニ付江戸払

右ニ付仕置附

右大田七右衛門山村信濃守殿勤役中
同人上中村火消役河野大学殿勤役中右

清次郎儀、頭分浅草ニ而板倉伊予守家来
上川忠七江預ケ置候儀ニ付、其上ニ而不留
致し、殊ニ右忠七ニ不知及、且倫理之同家来広井平蔵
相背候ニ付、一旦江戸之所預ケ候ニ付、右同人之儀ハ外ニ
相渡候ニ付、右之人、一旦忠七を捕押、不届ニ付被申渡
ニ而右ヲ直之返候儀ニ付、且又不届之仕業ニ付一段之
清次郎儀不届ニ付、其上ニ血を流し重ニ候
頭取之仕方不届ニ付、江戸拾里四方追放申

付、似例ニ見合、清次郎儀ハ酒狂之儀ニ付及
口論、手疵ニ負ハせ候ものも有之、捕押候ニ付遂
忠次郎所之役場中、其上ニ自分ニ而手疵を負せ候
儀ニ付、乱心ニ而不能申立候儀ニ付、右例ニ見合
不埒之方ニ付、一ト通之不届ニ付、江戸払

寛政十午年十二月
安藤對馬守殿御渡候書　根坂淡路守掛

一武州川越城下町並寺院門前之者ハ
領主役所江令出雑文言中ニ有之一件

松平大和守家来
上職人
浪士並次席
水上金五郎

右之者儀浪人武家之家来ニ候得共立ニ人
城下町並近之内並寺門前等ニ而酒
狂之家理不尽之儀并ニ打擲致し殊一旦致
徘宅ニ候又ハ難儀之者宅前江及乱暴ニ大
勢集り申込ニ致杯子元迄深く見届候儀
不致帯刀致し居立たまり〻服着ニ候も
不束之致方有之候上ニ〻人ニ不限申〻之不紛
元来申立ニ候ニ付不届ニ付被命ニ付江戸拂

斉帳要説之類

右御仕置済

右去子年池田筑後守町奉行之節ゟ限
同之上御仕置申付候、尚又依田豊前守
久世出雲守殿御渡被仰付候ニ付、町奉行所ニ而通ひ候酒
狂之者ゟ町内を離し候仕来人を召捕又ハ
町家ゟ追入ニ打合いたし候を離ス、抜刀を振立
離町新を為離候、不届ニ付、江戸拂申付候
親類ニ見合江戸拂

寛政二戌年六月
戸田采女正殿御家来　松平右京亮抱
一下谷金杉安楽寺ゟ寄附之敷取斗ゟ拝

下谷金杉
浄土宗
安楽寺元住持
当時隠居
祐松

右之もの儀両人表火ニ而大塚彦右衛門厄
介ニ致置候処両人相対死差極致し候ニ付頼茶屋
中同二月廿二日偶ニ出奔いたし当右衛門両人相致
絶命いたし候得とも彦儀も度ニ致兼候同月十二日
未明ニ両人相対死骸を右彦右衛門宅 分寺ニ門前ニ
一 尚も右死骸取捨ニ而右衛門地面ニ而女
一 記し候御取中ニ而致置候同茶共死候得共難変
候ニ付出施主右衛門右ニ而中医師ニ

手当致候得共其後同寺葬式執
行候得共右之本堂ニ而相究死骸を
為済候ニ付右葬ニ而致取捨申候得共ハ右之語
見候もの死霊ニ而不届ニ付右之身分見
致ニ而死骸ニ致絶命いたし候遠慮之儀
候右衛門妻へ申聞右葬ニ致し候
取未一寺ニ而任蔵候得共[illegible]不法ニ而立相
之儀方ニ而死骸を役人ニ[illegible]積ニ致

然とも被下候に付候彩紙に仏本寄慎に
頭ん未法割林にて仏前にも肖キ法人を徽製に
此に御寄り宣まて未衛に於遠鴻

右仏往生済

右仏法に寄揚を以不足候に御果は田福に付
死難得し夜名御心年遅根をは比ケ法人合
為見候斗にても寄慎暑従中鋪人集於以
右江戸拂に仰定に見合門導葬式御海

此ものを廉掛に被下候由御寄り寄進之月分
ニ通り別日未来し於にも皆右之帳追放在に成
御当一年も立者而も立し候田福を廉免と
御果此に被成足去葬て夜毎候宣料出荒
然共得之寛て御果は其のを心得居前日に之頂
立らしものを全免難候書荒候段を一条述て存述
或又候度富時申上に遠方御寄たれ之せ
存命とも存候得被去葬者此ものを往生相

死刑以上之儀ニ付候而ハ宗法ニ任セ
右敷地之内ニ而之儀ニ付当寺不申出候者
難捨置死人之儀ニ付而ハ其死霊祀候儀も
有之殊ニ菜汁之者共当寺不相致絶命致し候ニ付
右様之事致し候而ハ就中儀不届ニ存候ニ付
恐入候而ハ申立吟味も申付候処彼是
例も無之候ニ付而ハ不念書様を以渡し当寺之儀
未達之旨

右
安楽寺当住
恕性
右之者儀両丸裏火之番大塚吉五郎厄介ニ
致置候処四郊死期ニ及候ニ付致し候儀兼而申中
去十二月十二日絶命致し候処右寺へ遠様死骸
を右吉五郎方ゟ寺ニ而取置候段相届し死骸
呼次之儀致し藏衣取其上中女死し候段申中之儀を

祐松儀彼是及回答候を取ヶ不埒ニ付継合
之品住職ニ無之候得共後住ニも申談候由ヲ申ニ付
上ハ施主吉右衛門ゟ中ゞ醫師ニ而手当
致儀ニ而も自身縫揃中ニ而も不之事と候而
其外とも死霊ニ而不為と申ニ付申出候祐松暫而裾
不人之為死類も致絶命致候ニ付宗遠儀ニ
立後ニ而も死ニ致し諸事祐松ニ准し不埒
候段不届ニ付軽追放

右之通申付
右住職以前ゟ申合上清ヲ致し候師匠
祐松不埒之儀も有之候ニ付祐松ゟ見合揺不
不宜と見届候ニ付祐松之住職ゟ申立候ニ付
候段不届ニ付軽追放

西丸表火之番
大堀吉右衛門

本ゝより後江譜代江家人ゝ身分ニ而致居候
重ル義ハ以祢妹尼田祢兼而中ハ死期二月
十二日重科絶命致しハヽ存ハヽも可申遂御座
等申加ヘ一ト申候も不知身意仏像ニ申唱
等ニ逆因日晋方田祢呼吸立ゝ去年来果
作戒尼昂生ゝ申し女託しハ也ニ而悪門ニ棄探
中重悪絶ハ振子ゝハ逆死ハ等奉文ゝ上田祢
死骸を取し度也ニ而張人大鐘是ニ入辻ハ張而

茂富義ハ致棺を宮ニ死骸を居也安楽寺
ゝ而も因振取り去葬ニ可致以前ニ而段絶命
安楽寺ニ而遠候も安楽寺祐叔と申人一向ニ而
事ニ而往ゝ日ニ而殺度ゝ云様之ゝ入事の也一同ニ死
霊ゝ不而ゝ申出候業計申て自由も不致
之候ニ去中ニ而理ニ其上ニ病気ニ中之勤を
も同ニ急之たるハ安楽寺ニ而度ゝ之鉄ハ寂棄
者不届ニ付申追放

右御仕置済

右田様之儀ニ付一件遂吟味候処不届ニ
其遂ニ田様母婦儀ニ付其外ニ而吟味候処迄
前々ニ不取計候故郡中之者共差置不届ニ付
作様ニ有之候段申上候処郡中之者共迄申上候
悪性同様ニも可有之候得共相様ニ付候段申上候
其上病気ニ付不定勤ニ付候段申上候
其外等ニ付候も有之候得共書面之例も

急度及吟味悪性之見合一等軽く中追放

寛政二戌年十二月

松平越中守殿御月番　町奉行　池田筑後守掛

一松平阿波守家来加藤八郎左衛門留守居中鋪候一件

松平阿波守家来
加藤八郎左衛門

右之者儀小村皇國より借受之書面を以右之者

他所役人ニ而も有之候ハゝ銀高元利合
皇國借銀致不申旨之證文取置右之外證文
願之儀与書取作書面ニ而奉伺候処依之
上ニ而申聞候儀も有之候処右済口証文
諸家役人々口入通ニ而申合候迄ニ而も
不分明之右書物写取滞置
役者出府之折ニ而ハ名前無之當人
其人之名ニ而出訴候ニ付

致流布候ニ付、未承候處、表役未勤ニ付、身分之為
別而不埒ニ付、役儀取放、百日押込

同家来
小村重助

右之者儀、加藤八郎右衛門江續老ニ而書物を
同人親病死之節より借置候書物之内
とも他所致候儀も有之候處、右之外不埒ニ付

跡勤之儀書取候書面之内密ニ致候様ニ写し
とも外ニ而見候儀も致目覚如浮説書取も
不束至八郎右衛門ニ而未渡候同人写最前役
之儀ニ而未出不申ニ付、致流布候ニ付、未承候處
不埒ニ付、百日押込

右御仕置済

右御定書之写懐中之浮説中觸人集致候ニて
相聞ハ致人集候宿江戸拂殺記致觸

頭取右同断同也流行いたし候もの不抑をまゝ
青慎其外ニ取継仲間致し候もの御定之ハ
去ル巳年右之段記致し候御定ニ而過一両弐
八郎右衛門宣勝儀を継而致し候儀ニ付去ル午年
不紛慎流之書面を宣勝儀を八郎右衛門ニ
而見当候八郎右衛門儀を致し候出状を致し
而見当候取扱儀ニ而右之御定ニ而帯候
此度見八郎右衛門ニ而不ハ候致流布候儀与存

八郎右衛門儀ハ役儀取放百日押込宣勝儀ハ
右之見合百日押込

[illegible]

[illegible]

右之者共儀加藤八郎右衛門方ニ而取扱書面之
外流弘動之儀を書取ニ而書取候儀
呈上之聞届未致候段浮説雑説

中坪長俊を頼書物板行致候由申通り申合ニ
候迄得と出所をも不承糺致略差既脱不宜ニ付致
流布候段、第一致方不勤ニ付有之候得は別而不埒ニ付
候條取放二十日押込

右申渡済

右ニ付書物八冊三巻ニ見合不調法ニ付
奥州御勤候処を同様ニ候ニ付右同様候
取放二十日押込

寛政四子年五月
松平越中守殿江差出候写
町奉行
小田切土佐守

一 松平陸奥守家来林子平書物
著述致し候一件

松平陸奥守家来
林嘉膳厄介
林子平

右之者儀縦令利欲ニ不拘候共一己之存
寄ニ拘り取留候儀ニ者無之風聞之趣ヲ推量
を以異国ゟ日本を襲候事可有之趣奇怪異
説取交著述致し右之内ニ者要害
之儀ニも書顕し外地理書遠之絵図相添
一書本文ヲ致板行ニ市中書方江送り売弘
公儀を不憚仕方不届ニ付　重追放
由居家

兄嘉善方江引渡在所ニ而蟄居
　右仕置済
右ハ和泉寛年八月依田豊前守伺之上
仕置申付候ニ付永牢町安藤書店渡辺山源
太武儀当之市子居ニ渡世又は芸術ニ
励み旨ヲ仕家ニ外入込候而武を変
本之者致相聞之成立本ニ書之月不
可致名中学以乱を好み候程不届至極

甲府御城附御武具之義扱之儀見候ニ付右之
敷帯義早々御宿ヲ差出候右之乱之節ハ中
古書ニ相見へ候処ニ而後上列直百姓共搦動之節
出之ハ乍恐遠慮之事ニ而御座候尚御方も
林業義申付之これ御尋之候雑談
誠ニ堂上方ニ而古実ニ相成候様之義と聴
戚之気等ニ而権利ニ付地利ニ而不可尚也経
古今不合之異別ニ外及見合候得共地利

地者城之下門南御要害ニ而場所も相応ニ而周
護之利第一ニ候処ニ者青山者多不殺之分は家並
極ニ付死罪申付候ニ付例之通今代者後世を慮り
候も前之不敢自風申之又ハ推量をも可以て
儀ニ相成書継候ニ而は一己之当不便御尋之旨窺遂放

右御尋ニ付御答

此儀先年御仕置済ニも申上候通之例之通
右之格別不届至極死罪ニ当り候得共宥恕ニ而

引候儀も無之候得共師僧を著述仕候節之例ニ
拠も無之候ニ付外ニ本寺之例も無之候ニ付右
例ニ武等門下之者追放之本例申候間引候
筋も無之候而寺院 御仕置も本寺下
往古ニ而御定書ニ而者支配之由候得共本寺ニ而
ニ付右又勤寺住職相勤候年著述仕候不及
面ニ御座候ニ付候而住職宗師之越
非常之御仕置追放等ニ候

又は同格之著述之一住も難仕候間本寺ニ
而之例も無之候得共本寺本山ニ付汁(?)
不及候而勤之候故御仕置一通り申合候

寛政五丑年八月
松平伊豆守殿江差出ス　　町奉行
　　　　　　　　　　　　小田切土佐守
一平松町町醫師内田外記藤渋江之書物擬ニ
著述致し候一件
　　　　　　平松町勘兵衛店
　　　　　　町醫師
　　　　　　　内田外記

右之者儀江戸医師多紀広寿院致藤渋
合快致し候病人ニ候得共手ニ致し候所
藤渋江之仕方病者ニ談合之噂聞も承
末承及候ニ付右書腰ニ文之添書中ニ
広寿院右前を取し書物之類ハ外聞
無之類も有様所ニ頼之書物積ニ付書
物同在所申し候ハ渋江ニ付手ニ候而止ニ付候
致蔵候而新ニ人ニ見候ニ付其先き候而渋江広寿院右

返答ニ至感服致し今公儀より御達ニ候とも無余
儀偏ニ致し候末者別而院内ニ而右様
之儀猥ニ若違致し候ニ付其段取計致し有之
且又右書面之趣先年寺社御奉行より被相渡候家
来之者共ニ而も差戻無之候節者差返し候処右趣意
成以後右紙ニ而難得子細も有之候繕被致候品
茂不容易中頭ニ而も不取計候而も其身病身ニ而其聞
之様ニ相心得中止之趣ニ付然ル致ニ付相聞不申ニ付

被成御持作本取上百日押込
右は御免済
右者先年去ル同ノ例ニ而見届不申候ニ付先年
四月中初而勝手河内書附ニ而相渡申候ニ付新
去ル当所前々同家之儀進候得共後者
年中能々読本之義等改紙四月道
御所武家之儀ニ而御方右衛門ニ而対読之
内含清蔵ニ而候後日本双紙被仰付之由

候之處不束猥ニ商賣致来候公用ニ一通合
所願之上ニて縦令右之者ニ而三郎方江賣
渡并ニ品ニ不寄拾而放増ニ付右之書付ニ而も
右之仕来ニ致自儘ニ致不及ニ付三郎江
中候商賣為致商賣知ニ不差置内々御免書元
候得ハ是迄通用ニ渡之三郎取計ニ候得共
書面相渡候ニ付前々之通賣中渡候様被見置
之知不拾放増之儀共此外ニ渡不持ニ付右十日

手鎖中付ニ新例ニ見合不宜ニ付右ニ所ニ
候ニ不束之事ニ付品不残取上ケ百日押込

右之者儀住持出候ニ付該寺ニ而平日
居間ニ福耳以召仕平次郎酒酔致し候ニ付
内ゟ立入さし候処亜以後不束之存心ゟ以後
不斗平次郎酒清なく木刀ニ而神保之如何
候処中々以没打擲致候ゟ打殺候段
額突殺候処同中身分も白状不致様
平次郎致欠落候儀可有之と如何様之法度
之上生死不定之処白状を済落致難行

寛政十年午八月
安藤對馬守殿江伺書　脇坂淡路守
一　下谷泰宗寺召仕平次郎を住持打殺候
吟味一件

下谷
曹洞宗
泰宗寺
玄亮

被し又十ヶ所屋ニ平次郎と申者鉄炮ハ鍛冶
佛ニ寄附申候迄右所屋ニ而合候ハヽ不残
不他方ニも申付候ニ付申ヶ間ニ樹木代ヽ
光り兄弟居候土ニ而後者様より先祖を所用仕ニ
お渡し申處ニ付差上候

右御仕置済

右吟味書ニ付御尋ニ付中にて有之嫌疑無之候
得と面状不仕候享保辰年五月廿日

神谷志摩守殿へ伺之上ニ而仕置申付候井伊
掃部頭殿家来ゟ野村安蘇郡大佐町穢多源
右衛門ニ候通ニ而右御村平内悴ニ太郎次隆
御郡賀村之者共殺候一件ニ付其者共再吟味提出
申付ニ而罷越候ニ付太郎次切殺候處ハ存申中ニ付長
此者者全く而も風聞有之濁し役人も寄一而疑
一件之内證被致ニ而其弟人寄仕業ともしか致
之知白状不致ニ付受取申ニ付御座候

且又如三吉郎死骸見分致し殺害ニ無之候ハヽ
無御座候段申渡し平次郎ハ死骸をも無之以可呈
賣死と見届候得ハ無御座候段右例ニ依
同断右候ハ進達之上中ニ疑念も有之候ハヽ其
し同表ハ十八年相応右京之亮ゟ御届候上
往返中村ニ下谷金杉安楽寺元住持
南附添人旅行相候所西丸表火之番太田
吉三郎屋敷へ致し置候處同様死期見届

致し候様罷在候中候之二月十二日急度御届申
聞右之角田回称絶命之由と申付候得とも其
後養生方ニ而治療致し候処十六日未明二回称死骸
と右吉三郎見出し寺社門取立候間是又右之
死骸呼吸も有之と相改候所生存女ニ而
此段中之被見聞届候上ハ其上死候
之儀疑も有之候間聢と吉三郎ゟも
中ゟ醫師ニ而病気届致候様之事

寺請引導葬式執行候人も重く候也
本堂におゐて夜中棺を寺へ入死骸を
為浮様に土葬可致様相振申為置て
云語をもってしるしよのと死霊之不為を
申上申出も明知にあり死骸ニ申段
絶命可為しにて申遣之儀も吉吉郎
為人の心之ごとく申掛ケ土葬ニ致し候旅来
一寺之住職をも可為取放しなからの不得

之より旦棺之作り首木態之死骸を能
人ニ為浮作様りて申渡ケ作を発させて
可為し候様新紀之佛事寄懐之院未
御制禁之御觸ニ茂背き法人を被惑
しせ申ありけ不届ニ有之儀中身ニ例て
思召寄懐を取用候次第も不埒く
候ても御法不仕候之新例も可有之
事候

右

恭宗寺開化　萬柱

同寺元開化
南㴱渓華梅瑞州

同宗
出山寺　禅苗

右之もの於後恭宗寺ニ住平次郎を住持

一玄元此の此渡ニ夜中不計出行清来ニ
神湯之後玄元ヶ寺ヶ出候て玄寺住ニ候ニ
旅をヶ寺行方不知一中出候とも不知自ヶ上
平次郎と申所前断家之届ヶ候ヶ親類衆儀
寄端ま之ム連右所家ヶ至公ム後ヶ来候
一玄元何方ニ夜中ニ円之樹木ニ代りニ登り
男ニ候ニ生立剃出生死不定を知ニ存ム之ヶ
被ヶ済義式執行候し□□不済見届

其遊於候とも死骸ニ者右主節方ニ合門取置
候間右之死骸呼取ニ成右節生ニ申女
而し候得中ニ御通祐相ニ被見及同前ニ付
取立候へ共御今ニ而良住勝ニ女ニ候ニ付
渡候ても相叶候事者無之施主右主節ニ
中守藤候而其内ニ一被成候一個付後按中
ニ而も不之云語候而候ものを死霊ニ而有之
申之候祐相右主節女人ニ而死骸相渡

玄亮儀ニ取申候處不届ニ付女人を以遣殺
右御仕置附
右一件之内未宗寺ニ玄亮御仕置附ニ申渡候
玄ル元年ニ本夜東京ニ而鬼を限候ニ上ノ御仕置
申付候下谷合相安楽寺元住持南附隠居
祐相一件之内怨性候而九表火ニ言太様
右主節居分ニ得候處尼回称死相見候ニ付
依て萬ね中守二月十二日被絶命候女

継命被下候ニ付右遠島ニ相極候而も
被下候段常祐相ニ准シ取計候儀不届ニ付
重追放申付候處者例ニ見合不遠島ニ茂
寄場之儀を三奉行ニ而被下置候趣被申
ニ而不法之儀共数ヶ所有之ニ付右例ニ見合
重追放

隠鉄炮并捉飼場ニ而殺生之類

寛政元酉年二月
多居丹波守殿江御届書　御勘定奉行　根岸肥前守掛
一常州和泉村源七外壱人水戸殿領分境内江
鉄炮持入候一件

川崎平右衛門御代官所
常州河内郡和泉村
百姓　源七

右之者儀鉄炮備之為在村之外他村江
不残鉄炮相渡置候旨村役人江申付置候処
鉄炮を持出水戸殿鷹場内江不残入候段不埒
ニ付二十日手鎖

右同断

右去ル未年中右田橋鷹場ニ而無之候内
之儀相渡仍而上田組中村ニ付武州田中村ニ而
野呂之者召捕ニ而浅野長十郎御代官所上県

將多郡山上云様ケ谷村百姓孫兵衛儀御留
場ニ而不存候ニ付猟師用鉄炮を用ひ
右村江鉄炮御留場内江立入候段不埒ニ付
二十日手鎖申付候例ニ見合二十日手鎖

寛政元酉年六月
松平伊豆守殿江差出ス　山崎宗次郎　根岸肥前守掛
一下総国上飯山満村ニ而捕ニ鉄炮打懸候
一件
水戸殿領分
常州久慈郡田渡村
百姓
伊右衛門　当

当時無宿
伊右衛門

右之者儀年来隠鉄炮所持致し罷
在ニ付近辺御鷹捉飼場ニ而鉄炮打出候
不来敷候然処御免之者共捕を可打旨
捉飼場下総国上飯山満村地内ニ鉄炮
を持立入候処捕之者一人追来ニ付逃去候処近寄り
大躰者為下置候御鳥預ケ鉄炮ニ而撃懸

隠し鉄炮不届ニ付咎之事
右仕置附
右御免書之隠鉄炮所持致し候もの
江戸拾里四方追放并御留場内居候
在之者ハ八州中追放八州之外所
持隠鉄炮打候もの右同断ニ居候ハ
其所持致し居候村方も八州ニて
御免之候御留場ニも無之江戸拾里

四方之外ニ而御免無之猟業致し候所之積ニ
御留場ニ隠し鉄炮を持込入候上ハ
最早中ニ候もの右隠し鉄炮所持致候
候もの之御定ニ見合せ重追放ニ而御留り之
中追放外ニ而追放候旨下置ニ而御附
御定御在候ニ而ハ義御在所之義本罪ニ一等
重きも重過ニ有之へく候ニ付御定ニ
御在候旨之通例ニ見合候

未済

寛政二戌年四月
松平伊豆守殿御差図
一上総国南横川村ニ而擒ル鉄炮打長兵衛
一件

御勘定奉行
根岸肥前守掛

須田甚八郎知行
上総国埴生郡早野村
百姓
長兵衛

右之もの儀地頭より村方ニ預ケ置候鉄炮
四季打鉄炮を借受村内字大芝山ニ而
手負猪を見迯し打留候段追詮ニ而席捉
関場内ニとも不存候得共南横川村地内ニ
鉄炮を携立入剰誰抹揚ニ鑓振りなと打留
一了中を殺生業を致候段不届ニ付中
追放
右御仕置附

右御定書ニ隠鉄炮所持致し候もの関所
をも通り捨置候とも中追放当場内を除候右
之外罰ハ別中追放罰ハ別之外評掛り
有之共上之もの所持之鉄炮ハ隠鉄炮ニハ無之
四季打鉄炮を関門を越候とも村役人方ニ
不届候て剣遣し鉄炮之儀唯し一了中を
南横川村ニ捉関場門ニも入候其業右村
ニて鉄炮をおゐ候事之儀ハ右之儀ニ異

八州も中追放とも御定之通　中追放

寛政三亥年六月

松平伊豆守殿江差出ス　町奉行　池田筑後守掛

一　千住宿家主嘉右衛門外弐人内当川筋殺生

致し候一件

千住宿三丁目

家主嘉右衛門　地借

嘉右衛門

外弐人

右之外堤続渋川通り当川へ渡候節者
此外ニ而見立村弐ケ所渡ス人数も少く相成候ニ付
当正月ゟ来ル戌之冬迄川船ニ而艘渡請負
少人数ニ付壱ケ年 正銭三貫文

右ハ渡済

右安永五申年牧野大隅守殿御勤役中
同人上田渡船賃請米金被下候所
久保清御当川内ニて渡船役ニ而

家主ニ付大坂中渡ニ付取扱候所 右場所之為
船御手当ニて被下置候 去未九月より同十六
日迄之両年御合宜敷御渡し候ニ付右之通請
取候者所持之船ニ余大川筋当川内ニて
船御手当船ニ而御渡ニ付同八日御年貢ニ
当川之渡船御手当せ候ニ三ケ年ニ而取極
住所不残ニ而代銭弐百五拾文ニ而貢
之通候本増ニ付正銭三貫文中船ニて

見合五料銭之貫文

寛政四子年至二月

戸田采女正殿御預所

御勘定奉行

曲淵甲斐守掛

一上総望陀方木村藤八事越次九兵衛扶施致

貢買公一件

松平大和守領分

上総国望陀郡方木村

百姓

藤八事

越次九兵衛

右之上の様鉄炮改之儀ニ付而も度々御触
ニ而厳敷被仰出有之候得共所持致し
鉄炮不用之分ハ遠国ニ而古鉄炮買請候ニ付、
其儀致所持ニ付而ハ猟師ニ相成鉄炮并薬
之儀内ニ而売買致し候段不届ニ付
一 重追放
右ハ住居所
右ハ差書ニ隠し鉄炮所持致し候ニ其実

八州中追放之儀ハ猟師之外ハ猟師迄
鉄炮不所持之事ニ候処右鉄炮拝借致し候
関八州中之分ハ所持之内ニ而鉄炮
買受右之代りニ相用ひ候趣ニ付全く隠鉄炮
所持いたし候段重科ニ付右ハ鉄炮拾丁ニ付不届
可然候得共左之御仕置ニ被仰付候相用申候ニ付内証ニ而売
又候猟師等ニ而致売拂候ニ隠鉄炮致所持候
ものハ不宜ニ付以之外之事ニ付差紙ヲ以て死罪

附込との申立候當一件ニ付御定より一等
重く中追放

寛政四子年六月
戸田采女正殿御掛
町奉行 池田筑後守掛
一武州花又村良助溺死ニ付一件
武州足立郡花又村
継右衛門
右之者儀打果候様申附杉田与左衛門 良助

一此者穀物御構門之内其所江蔵之
御礼金貫請候上ニ而右延引無之方ニ而
尋之候ても未遠之儀ニ付之候旅者
既ニ而判ニ而不届ニ付江戸拂

江戸構
存命ニ候ハヽ
享保

右御仕置附
右者當例御免所御當地ニ而為殺生
いましめの御定ニ細式を穢縄ニ而為
殺生いましむ之料を以式との儀を
殺生いましむ之ことニ並ニ右衛門致し殺
生類致ニ付ても因根之儀ニ付候ニ付総而之
角分ニ付候頭ハ構候ニ付候孫ニ付ニ付下通り
之御當構ニ而遠ニ御構門之候ニ付ニ付此

重々其請ケ嫁共不請ニ付過料ニ可被
川留ニ付越候處川ノ新例も無之ニ付渡セ候右
御定木ニも見合格別不宜ニ付江戸掛

同村
總兵衛
吉之丞

同国同郡
千住宿四丁目
總兵衛店
庄之助

右之者之儀綾瀬川通ニ而舟振通ニ付都合之
処渡り料が宿ニ申紀渡し留人届り候渡
候得夜喰間ニ而渡し出候ニ付拾候ニ付で候處
合ニ而同人ニ方食物ニ而振出候處右船未於
なかから捨置ニ付申候不取締之趣不及

願候見分之上座無之候得共不埒之者共人
ともニ訴掛
右ニ付願済
右者前例之通見分之上相当之旨書付差上候
同人分訴掛

松平豊後守家来
柳田与左衛門

右之もの儀ハ入会豊後守訴訟ニ付申合
荒廃残無之追々仕込候者共ニ付候由中ニ付
之月下座候門様之上無地候之仕込
那成提同候度不申出候高音候ニ
相楽間以来之以後毛申度相掛ニて
扇也以後来別ニ不埒之者扇子所上申
挨之
山分家

覚

右従往古

右者常々例年見分之節書付鷹方

御勤被遊候御場所之儀ニ付上覚御答

候段承届之様子數ヶ年来不宜場所ニ付

候得共追而可然御同人江申付候様

其人ニ鷹方之者共差出書付差上申候

殺生之儀ニ付同様ニ心得候様被仰付候

遠法ニ鷹方御勤被遊候所可申不埒

之段右御定ニ無紛見分候ニ付鷹方急度例も

無之候得共右御定之事ニ付向後重キ不埒ニ

付鷹方殿上百日押込

同人家来

足輕

天野亀市

右之もの儀杉田与右衛門申合総左衛門
方ニ而使ニ参り府当者ゟ致申候し日限相ね
定メ召上ニ而場内ニ而府当者ゟ能ク一円場所ニ而
手紙以後ハ不埒ニ付三十日押込

右之者
呵退散

右ニ付 結 之附

右者当例右見不申杉田与右衛門申付ニ
使又ハ役儀ニ而手紙ニ而右之者儀使ニ而
場所ニ而様子を得与不及不埒ニ付三十日
押込

同人家来
市来右衛門

右之もの儀杉田与右衛門申談并
十之条一円式例草水場所ニ而場内ニ而出度

湯屋喜兵衛此段兎不埒ニ付屋喜方へ被上
五十日押込
此者
宜追放
同断
西尾権之助支
波井十之進

右之者儀ハ清水御屋敷差出勤候處
屋喜兵衛此段宿易ニ雑奴奉公人世話ニ而
打田与左衛門方ニ而奉公先世話
一同相摂門之者奉公屋喜兵衛此段先ニ相届
主人方之者雖及答
此者
宜追放
右御仕置済

右寺内之儀去見分ニ而ハ場所ニ不識候ニ付
縁を致吟味相田与左衛門殿計ニ而差出候処不
同之振合有之候ニ付猶又今般下知有之
与右衛門江申付候処ニ相違之儀無之由ニ付 右
与右衛門ニ而見分合ニ付右衛門儀も相違方取調申候
押込之寺内十分之清候儀も同様ニ付元清水殿
相違無之事勘定上ニ場所之儀ニ付被下
候ニ付候旨御届之儀ニ付御願ニ候間宜奉上

挿入候ニ付之儀も御届候ニ付之人別帳
可然

寛政五丑年九月
松平伊豆守殿御渡候写

町奉行　池田筑後守掛

一 淀川市川船金之助江当川ニ而奥稼出候
一件

淀川市川船
長七
辰
金之助

右之者儀子供住大橋先例ニ而当川之儀も
兼而当年より如当面ニ月中右川筋ニ而上銭
奥稼ニ而致候ニ付此者共ニ申合せ候ヲ聞済
之外之料三貫文
右ニ付相済
右者去年六月同人之上中村子住宿
三十日(?)右之者共江外井人続続衛門迄当川
之儀兼当川ニ而其上村其宿役人ニも其
中村其より如当面ニ月中其より右川筋ニ而上銭

賄致し候従来人足不情ニ付過料三貫文宛
申付候得共今以右躰之儀も御留川ニ而魚猟
不致筈ニ而兼而申渡候処殺生致
候段致し候も同様之儀ニ付右ニ准し
過料三貫文

寛政六寅年八月　町奉行
安藤対馬守殿御懸り　小田切土佐守掛

一深川蛤町次郎兵衛外ニ人御留川内ニ而漁猟
致し候一件

深川蛤町市郎兵衛店
次郎兵衛

同所九兵衛店

与之吉事
文次郎

同所市左衛門店
源八事
源蔵

同所忠七店
石松事
安五郎

右之者共佐渡漁猟渡世致し浅草川筋

当川内ニて漁猟致候者共年々御鮒
奉献上仕来候処右川筋ニ漁猟ニ事寄悪足り掛
云殺以進取斗存付右当川内江忍入小川
網ニ而漁猟いたし候段一同不届ニ付過料
三貫文宛

右御仕置附

右文政五午年九月池田筑後守伺之上取計申付候
深川本所町長七店金五郎倅子供小橋

先川ゟ出ニ而當川ニ候ニ付悪水落候ニ付取払御南
八月中古川筋ニ而新規魚簗一ケ所之取計
支配役之者以後見届方不行届ニ付過料三貫文
中村役人儀ニ是又過料三貫文宛

寛政六寅年十一月
安藤對馬守殿御差出
御勘定奉行
曲渕甲斐守掛
一武州[illegible]名主新田[illegible]出入取扱一件
根津權現社領
武州足立郡ニ而名主新田
石坂[illegible]右衛門手代
佐之吉

右之外之儀御高札之趣を不相背何事によらす不寄
喧嘩口論ニ逢候者其所庄屋組頭ニ為知有合
竹木并御林之猥ニ伐取申間敷候并致
御公儀之御法度之義ハ不及申遠慮之筋堅ク相守
之儀ニ付而何事ニよらす心得違ニ無之様相背
一 他国之者を隠置候所右之儀ニ付御高札之趣ヲ致候所死
御法度之所承知不届之者ニ可被仰付候間其旨急度相守可申事
右御觸之趣

右御高札之趣并御法度之段堅相守可申候ニ付
中候ニ而他所之者知合御高札之趣不相守河魚
御武器喩合并ニ猥ニ他所江不致出入仕候
御法度ニ付我等遠慮可申候御制禁之趣急度相守
但シ鳥類魚類之御定ニ而見合次第利欲ニ而
米ニ而麦殺生致し候とも於有之者
別而御法度之御紙面之所御高札之趣を相守候
之其外之儀を以可被仰付候堅相守可申候

御内々右御書付之類迄も一覧ニ不及候ハ
総而同様寛勅何篇ニ茂不相成候ニ付
御蔵書を取扱候ニ付而御追々其御蔵書帳面
例之通見届不申候得共五十日手順

別紙
享保七寅年七月

御蔵書返并同人之儀
修復之御書外

一御蔵書提剛として野先より出候附を目今
何様之御蔵書ニ而も御取扱之御蔵書を相省候
非同公之蔵書を提剛中度相心得御報申上
其前より無返上済候ニ付而其沙汰無

一右之通御沙汰を召職ニ対し節々迷惑
なる儀ハ何百年ニ而蔵書等大半ニ相成候迚

百姓を越候而中百姓ニ而百姓ニ池免ニ召
置候者於有之ハ百姓ニ為申事自分之館
無之仕事
一野山出作より村之儀所有之百姓
書付等之儀証文を請取一両ニ而江戸御役所
ニ而より所目を可申事
一在之道ニ而上下之者并ニ往還之者ハ仲間ヲ以て
寄合候者ハ引事百姓寄合申間敷事

召使候ハヽ其外町並来之者等一切ニ合用無之
候之事
但水夫之儀ハ右之通不致
候事
一在中江伝馬人足之儀者前々作并召使
来候ハヽ元来ハ年寄其外格相談
仕候ニ而借用申付之名主ニ而有之又百姓
難儀不仕候様ニ可申付之由道ニ可致

結付之事

一 指間之包脇之中を横切ニ通り首處承
はせ候を通し可申事

一 間さし助より足之洞自を指身処ハ自分
用事ニヶ所ニ而一巻之紙処一ヶ所付申事

一 挽事面書之候ニ付手を結候ハヽ合處之候
んに申ツうつすことに可仕申事

右之通此結付当處度申書候趣宜御覧

之後自然脇指出来候ハヽ一ヶ所見候ハ
御用大切ニ存候殊更為大切ニ処置
可申候事

寛政七卯年十二月
安藤対馬守殿御渡候写　町奉行
坂部能登守
一鯛番屋由役者尾澤権七并ニ外壱人鳥殺生
致し候一件

鯛番屋
由役者
尾澤権七

右之者共綾川筋ニ而鳥殺生不致筈候処
去寅年十一月中旬ニ本所深川新地
沖并大川中洲辺ニ而流黐を以鴨
鴨二十羽程取右之内鴨拾壱羽殺し殺羽
取候段其中ニ而何れ之仕所不存者ニ売
買出之者江売払候旨申候得共綾川筋
鳥殺生致し候段重々不届ニ付
身分ニおゐてハ兼而相慎候様右筋不届ニ付百日押込

右植甚悴
見習
尾濱宇七郎

右之者深川筋ニ而鳥殺生致し候
段ニ付不埒之儀ニ付去未年ゟ当十二月
廿日頃迄度々深川新地沖并大川中洲
辺迄ニ而流縄を以殺し鴨之十羽程取
右之内鴨料ニも以売し殺羽取候由右之

取半ニ而ゟく右住所不存魚買
出し候之者之白状書並又植甚悴ニ
領之ニ在住ニ以来去ル中なから右
職業不埒ニ付二十日押込

右件御済

右ハ白状書之通両端ニ而個鳥黐縄ニ而
鳥殺生以致し候之者之御料を首ニ
候を而非断人ニ候ニ付此者之儀も

畑も御検地ニ付候得共如く川筋如く
魯穀生致し候儀ニ而者無御座候得共此度
魯穀生以多し候段不埒ニ付百日押込
半七郎儀も御定書前書同断押込　又
権左衛門若党ニ隠し置候而右之外ニ申
川筋如く魯穀生ニ而者無御座儀ニも無
庄屋又権左衛門ニ諸事も可申付処
ニ候得同様魯穀生以多し候段不埒

子月二十日押込

寛政八辰年六月

安藤対馬守殿御掛　曲渕甲斐守殿（御勘定奉行）

一　上総国鉈谷村彦兵衛同国小池村

長三郎江鉄炮為質候一件

松平織部知行

上総国武射郡鉈谷村

百姓

彦兵衛

右之者儀、私所持之鉄炮を以猟師商売致候

義ニ付候より中渡在之候由ニ而長三郎上

猪鹿多罷候ニ付、猟師清兵衛鉄炮

を借請所持致し、玉なし二而差置候処

鉄炮ニ而関副澤村山田村之内字宮間

野と申所、夜ニ至猟仕在、右鉄炮持参り

鹿見ニ及、小池村長三郎江預け置

候義ニ付、鉄炮を以候探遺一ト中々

庄吉兄弟之者掛ヶ付長三郎ト申付
候段不遠ニ候中之も悖(?)成候ハヽ今中遠
候ともに隠鉄炮所持長三郎ト申者ニ右申者ニ而
同人共申以上も責不届ニ付申渡

右御仕置附

右宝暦十一巳年ニ京都町奉行ニ而伺
丹波国桑井郡上野村百姓平左衛門悴平
四郎儀宝暦九卯年六月十二日同村喜兵衛

悴平七と申ものを猪鹿と存鉄炮打放
候処平七ハ股ニ当り手疵請相果候処平七
儀兵衛鉄炮所持いたし右鉄炮仕内
絶命仕候平四郎儀同人ニ而鉄炮買求メ候
猟致し隠鉄炮所持仕猟ニ鉄炮打候
実ニ不届ニ付在所之金子差出候
平蔵不束ニ付平七殺害之段交娯(?)
家ニ而借家ニ而候ニ付申付

之在中ニ候者流罪中ニ付例と見合之為

寛政八辰年六月

安藤對馬守殿御渡　御勘定奉行

曲淵甲斐守　掛

一武州西ケ谷村次郎左衛門外壱人御赦ニ付

以書付伺之一件

菅沼安十郎御代官所

武州葛飾郡西ケ谷村

嶋先ニ而

次郎左衛門

同村貝賀

傳次郎

右之者の儀もそら細々為移致候右屋

共ニ打殺候段我々ニも遺恨ニ存候

右之段有様申上候得共尚根々往生ニも

一向不存候ニ付御詮量妻人中合右屋を構置

次郎兵衛ニ不相談ニ而申口を合探源宗勧

御當見聞之者共も申伝ヘ可差上候旅宿来書写

右付妻人共三十日手頭

右伊賀済

右屋を討殺候而悦我ニ存遺恨ニ付尚

去々年二月限同行ニ上り殿中村ニ而武別

源左清郡田奥兵衛仕佐兵衛清候由者ともを

不届付何者ニ而候不存管合之人共兵衛

庭白旅之者共例ニ而合候行先ニ土屋綱兵

北條経料式之貴意ニ取しれ且度ニ而右之

一　逼塞申付候処相構内ニ徘徊いたし候ハヽ
何者ニ而も申付候儀を致違背候如之不届
右寺ニ候者ハ御預置候ニ而殊ニ師弟之儀ニ候上ハ
別而不届ニ付五十日可為遠慮申付候寺役ニ見
合御預置候者を申殺候ニ付不遠慮ニ候得共縄
何分見届仕候身分ニ而御咎等ニ而一旦遠慮申
殺候を相隠置其節口上を以申立候不届ニ付
此度ニ而当同様五十日可為遠慮ニ而も一旦致し候

御預置候者相果候ニ付経料之儀不往合申付候を
取扱候ニ而取計ニ付其実ニ而も不届之
右ニ付逼塞二十日可為遠慮

寛政八辰年十月
安藤対馬守殿江差出

町奉行
村上肥後守懸

一酒井雅楽頭足軽吉田文次殺狼藉ニ
一件

酒井雅楽頭足軽
源内事
吉田文次

右之者儀伯父又次郎江清養娘みね事
神田佐柄木町ニ罷在所ニ狂女ニ相成候ニ付
妻ニ~~おゐて~~名乗度く文通致し又ハ手紙ニ而
一向取敢不申ニ付酒狂ニ而脇差を抜立候
之捕押之後猶又寄之手紙袖留之妻ニ
無之候ニ付彼是難渋申立其外之仲人
之居七兵衛ニ不宜趣申顔同人と申
申立候事ニ付同月九二日夜ニ三人より頼り

並鉄炮を密ニ隠持出同夜江戸中付込
在々七ヶ所ニ鉄炮并込置候所市中ニ
出火させ上ニ而騒動追々不埒到
御城之方ニ罷越候而可申旨承不思
公儀を仕形言語ニ不届千万ニ付引廻之上
死罪

山口家
被命ニ付候也

獄門
吉田文治科書之内
御城之方ニ罷越候儀を見候而ハ申儀を申達可
申渡之事

右江仕置

右者前之例書当申中ニ付定書之隠鉄炮
打ちこみ江戸格別不届并ニ而当情内之隠込
外国人別中遊放罷人別之外部拂之事

此ニ見合候ハヽ此方の儀ハ不及申ニ外様
来袖居候妻ニ致遣候ハヽ遣候ニ致遣文を
及鉄刀を揃ニ立路次ニ而右様浮候ハヽ其手を
切捨候共怒ニ組置申事ケ為致候 此儀をも
遣候ニ付主人ゟ談り重候様被仰付候ニ付
持出成しニ而も不申ニ立候時ハ後代ニ人家ゟ
主を殺候ニ付右者ハ定ルゟ一等重く死罪
申渡ニ而も一旦御定ニ候ハヽ是ゟ而高備ニ而も鎮

御城ニ而万一留者ハ若干市中ニ而右様之者共及ハ
此後其外一不忠
公儀を住形之者不届ニ致候者不届至極ニ付遠も
死刑せず不遂之者ニ而者留向後諸人ゟニ見懲
ニ為ニも右之者留置候上死罪

寛政九巳年七月

右同係中書留済　御勘定奉行　根岸肥前守様

一　上州平塚村又左衛門外弐人捉網場内にて

鉄炮を持居候一件

上州勢多郡徳川村

百姓

雪助

百姓

茂八方ニ居候

同人弟

文蔵事

久米八

右之者儀捉網場内ニ而又左衛門ニ行逢

候處鉄炮持居候ニ付見請候ニ付村役人江相届

候段一公儀知、右之儀野廻り之者江相届候處

鉄炮を捨又左衛門逃出候ニ付召捕候由申談

六ヶ敷儀を存一円近在ニ而諸来不情ニ付五料
之貫文宛

右市場所

右ハ宝暦十一巳年安房守様御代官御勤之
節之義ゟ根岡上ケ被仰付候ニ付御継目
当所并旧当村百姓共之儀及其業茂
相叶候ニ付也当業方ゟ来り同人ゟ被仰
請候業茂ゟ相違之上被仰付候而罷

おゝひ候ニ而相候も有之之業務中当ニ付茂
拝金ゟ後之同支致し候得不情ニ付五料
残之貫文ゟ付ゟ前例之見合毎人へ之残
五料残之貫文宛

日本政府圖書

国立公文書館
National Archives of Japan